

# 帯 広 市 総 合 計 画

## まちづくり市民アンケート

### 報 告 書

平成 1 9 年 度

# 目 次

1 . アンケート調査の概要	P 1
2 . 回答者の属性	P 2
3 . 帯広市の特徴について	P 5
4 . 帯広市をとりまく社会情勢について	P 7
5 . これからのまちづくりの方向性について	P 2 0
6 . 市民協働について	P 2 4
7 . 「広報おびひろ」について	P 3 0
8 . 帯広市のまちづくりについての自由意見	P 3 6

## 1. アンケート調査の概要

### (1) 調査の目的

新しい総合計画の策定の参考にするため、これからのまちづくりに関する市民の意向を把握するため、アンケート調査を行いました。

### (2) 調査項目

アンケート調査項目は、次の7項目、15問です。

- ・ 回答者の属性 (4問)
- ・ 帯広市の特徴について (1問)
- ・ 帯広市をとりまく社会情勢について (1問)
- ・ 帯広市のこれからのまちづくりの方向性について (2問)
- ・ 市民協働について (3問)
- ・ 広報おびひろについて (3問)
- ・ 帯広市のまちづくりについての自由意見 (1問)

### (3) 調査方法

- ・ 調査対象地域 帯広市全域
- ・ 調査対象者 帯広市民のうち20歳以上の男女, 3,000人
- ・ 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- ・ 調査方法 郵便による調査票の発送・返送によるアンケート方式
- ・ 調査期間 平成19年11月16日～平成19年12月3日

### (4) 回収結果

- ・ 発送数 3,000人(男性1,421人、女性1,579人)
- ・ 有効発送数 2,998人(男性1,419人、女性1,579人)
- ・ 回収数 1,062人(男性448人、女性607人、不明7人)
- ・ 回収率 35.4%

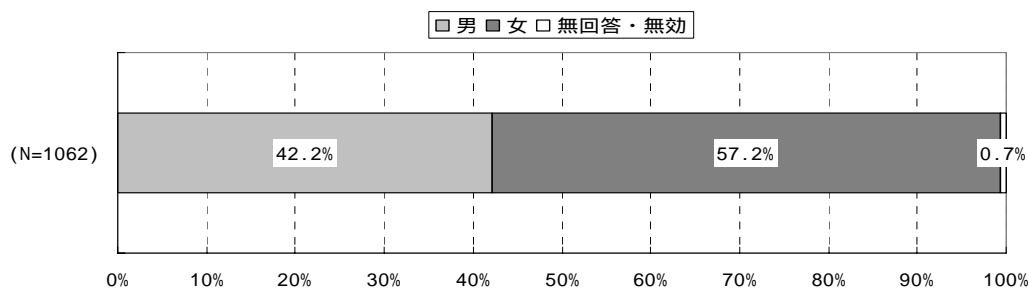
## 2. 回答者の属性【問1～問4】

回答者が性別、年齢層、職業、世帯構成を回答し、居住地域は、事前に調査票に地区（東、鉄南、西、川北、西帯広、南、農村）がわかるように、地区コードを記載しています。

### 問1 あなたの性別

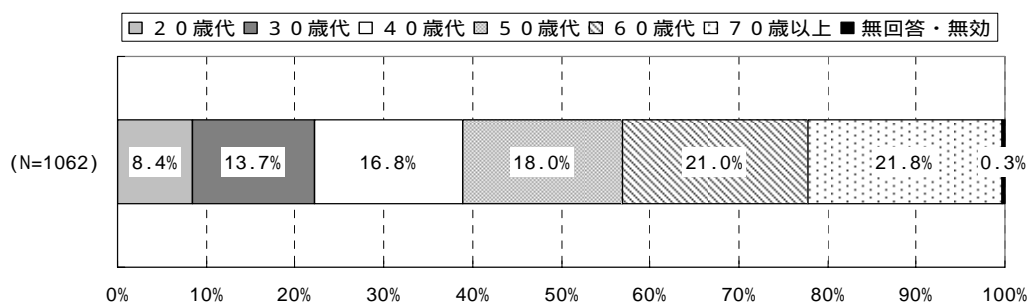
回答者1,062人のうち男性448人、女性607人、無回答・無効7人で、割合は男性42.2%、女性57.2%、無回答0.7%となっています。

なお、有効発送は男性1,419人（47.3%）、女性1,579人（52.7%）であり、回答率は女性が上回っています。



### 問2 現在のあなたの年齢

年齢層別では、60歳代21.0%、70歳以上21.8%と比較的高い年齢層の構成比率が高くなっています。



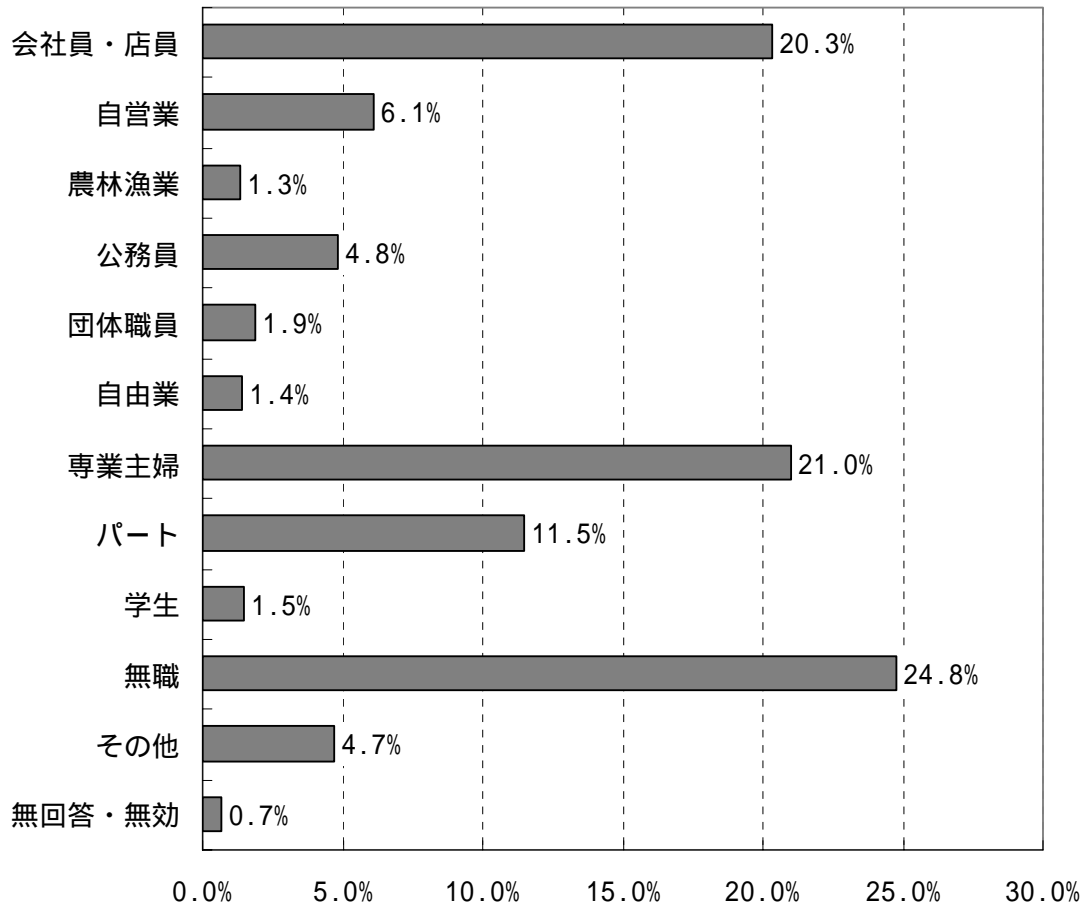
参考：年代別調査対象

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
発送数	437人	533人	486人	567人	460人	517人
構成比	14.6%	17.8%	16.2%	18.9%	15.3%	17.2%
回収数	89人	146人	178人	191人	223人	232人
回収率	20.3%	27.4%	36.6%	33.7%	48.5%	44.9%

回収数は年齢不詳の3件を除く

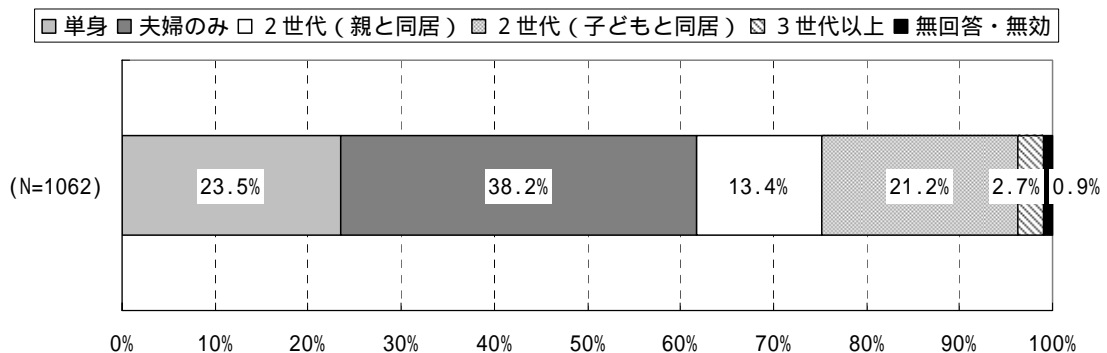
問3 あなたの職業

職業別では、「無職」24.8%、「専業主婦」21.0%、「会社員・店員」20.3%が上位を占めています。



問4 あなたの世帯構成

世帯構成は、「夫婦のみ」38.2%、「単身」23.5%、「2世代(子どもと同居)」21.2%となっています。

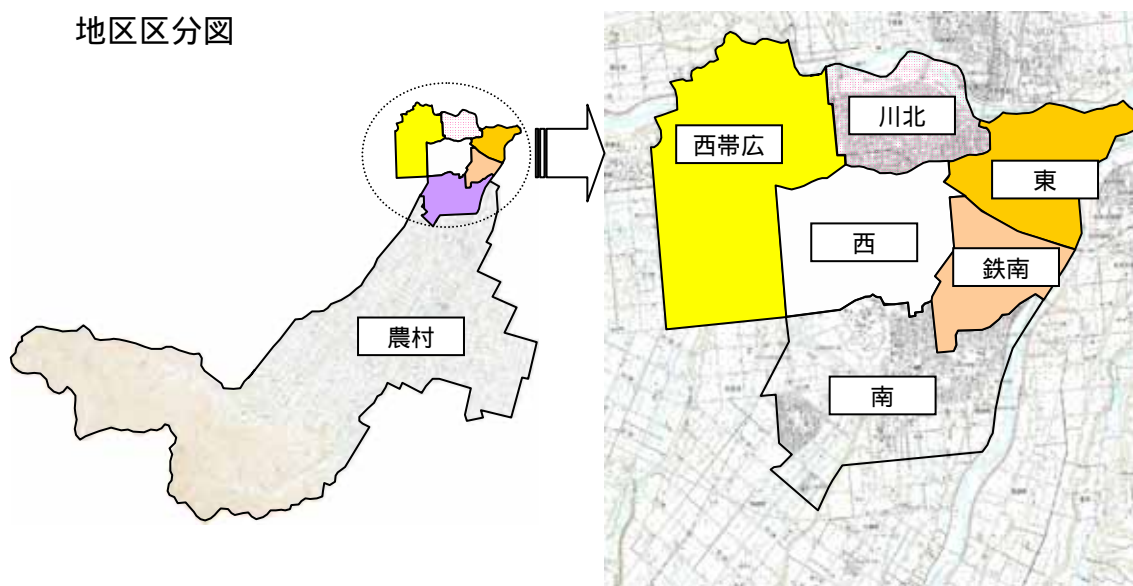


## 居住地域

居住地域別では、「南地区」41.1%、「西帯広地区」38.3%、「東地区」36.3%が比較的回収率の高い地区となっています。

地区コード	地区名	配布数 (人)	配布割合 (%)	回答数 (人)	回収率 (%)
1	東	292	9.7%	106	36.3%
2	鉄南	423	14.1%	133	31.4%
3	西	868	29.0%	301	34.7%
4	川北	411	13.7%	129	31.4%
5	西帯広	381	12.7%	146	38.3%
6	南	494	16.5%	203	41.1%
7	農村	129	4.3%	44	34.1%
合計		2,998	100.0%	1,062	35.4%

地区区分図



### 3. 帯広市の特徴について【問5】

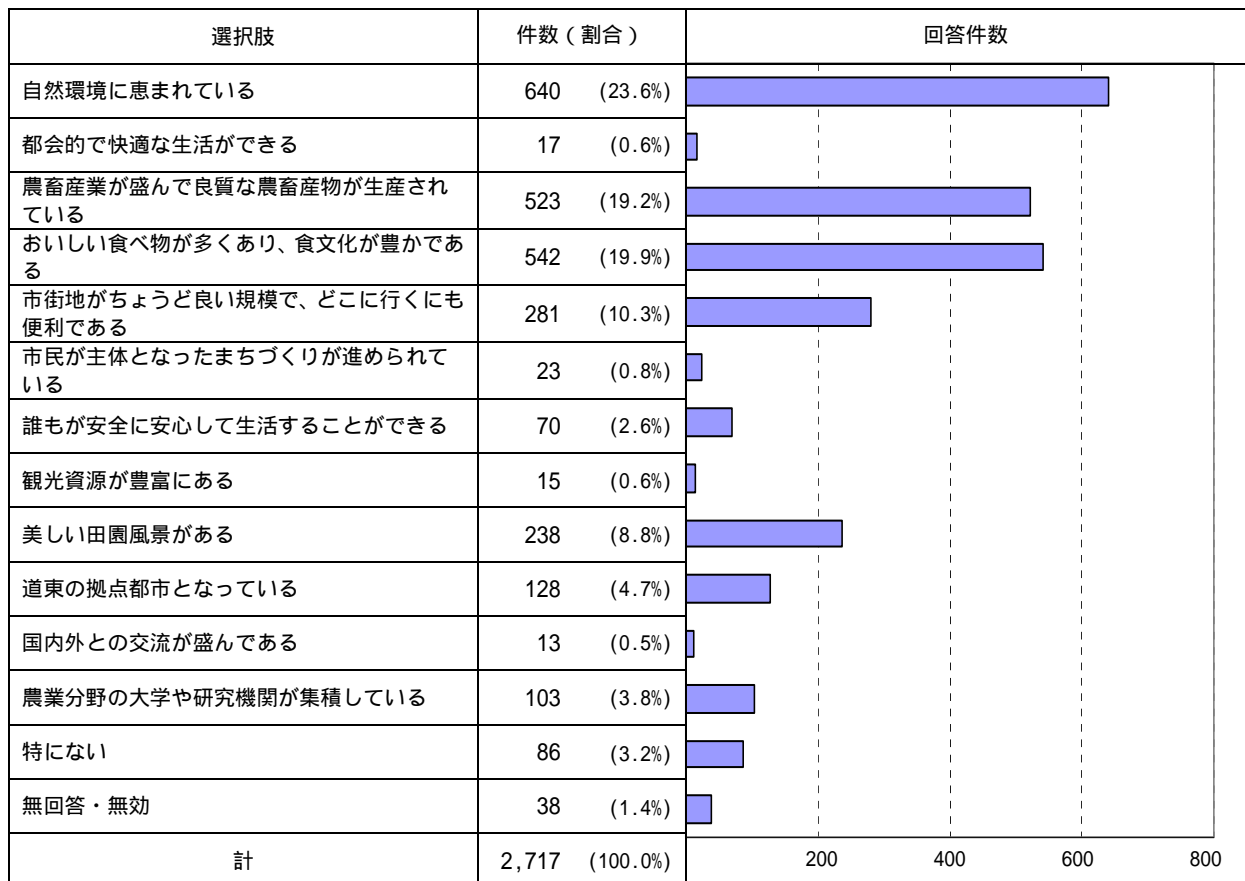
問5 帯広市の魅力はどんなところだと思いますか。3つまで選んでください。

- |                               |                         |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1. 自然環境に恵まれている                | 8. 観光資源が豊富にある           |
| 2. 都会的で快適な生活ができる              | 9. 美しい田園風景がある           |
| 3. 農畜産業が盛んで良質な農畜産物が生産されている    | 10. 道東の拠点都市となっている       |
| 4. おいしい食べ物が多くあり、食文化が豊かである     | 11. 国内外との交流が盛んである       |
| 5. 市街地がちょうど良い規模で、どこに行くにも便利である | 12. 農業分野の大学や研究機関が集積している |
| 6. 市民が主体となったまちづくりが進められている     | 13. 特にない                |
| 7. 誰もが安全に安心して生活することができる       |                         |

帯広市の魅力は、「自然環境に恵まれている」が23.6%と最も高く、次いで「おいしい食べ物が多くあり、食文化が豊かである」が19.9%、「農畜産業が盛んで良質な農畜産物が生産されている」が19.2%の順となっています。

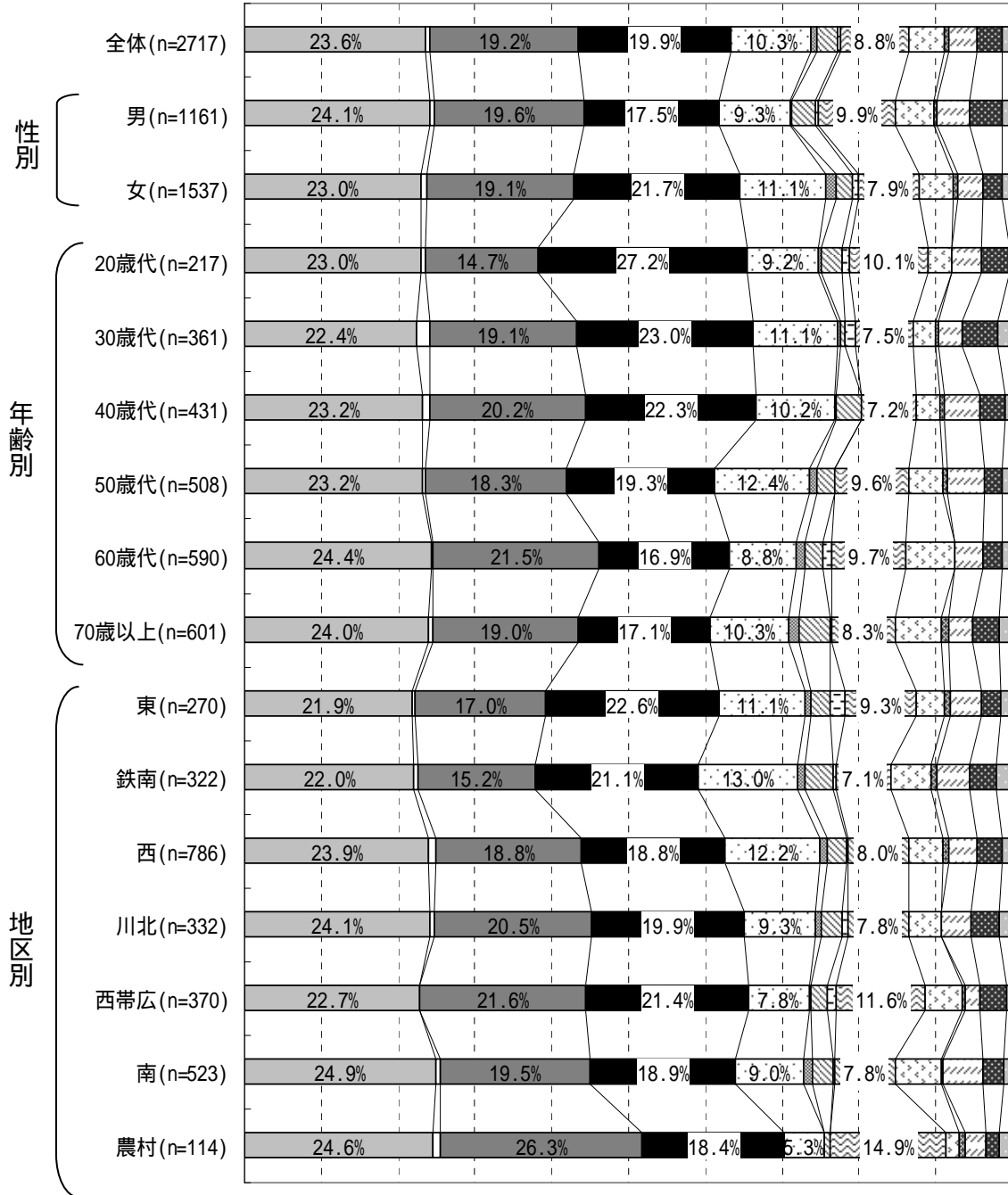
帯広市の恵まれた自然環境のもとで、良質な農畜産物が生産されていることが評価されています。

年齢別では、若い年齢層になるに従って「おいしい食べ物が多くあり、食文化が豊かである」が多く、また、農村地区では「農畜産業が盛んで良質な農畜産物が生産されている」「美しい田園風景がある」が多くなっています。



### 問5 帯広市の魅力(クロス集計)

- 1. 自然環境に恵まれている
- 3. 農畜産業が盛んで良質な農畜産物が生産されている
- 5. 市街地がちょうど良い規模で、どこに行くにも便利である
- 7. 誰もが安全に安心して生活することができる
- 9. 美しい田園風景がある
- 11. 国内外との交流が盛んである
- 13. 特にない
- 2. 都会的で快適な生活ができる
- 4. おいしい食べ物が多くあり、食文化が豊かである
- 6. 市民が主体となったまちづくりが進められている
- 8. 観光資源が豊富にある
- 10. 道東の拠点都市となっている
- 12. 農業分野の大学や研究機関が集積している
- 14. 無回答・無効





## 4 . 帯広市をとりまく社会情勢について【問6】

問6 それぞれの項目（A～K）は、帯広市にとって「プラス」と思いますが、「マイナス」と思いませんか。

- A 「高速道路の札幌圏への延長」
- B 「三位一体改革や道州制など地方分権の進展」
- C 「人口減少時代の到来」
- D 「少子化の進行」
- E 「高齢化の進行」
- F 「団塊世代の退職」
- G 「経済などの国際化の進展」
- H 「インターネットなどによる情報化の進展」
- I 「温暖化など地球環境の変化」
- J 「石油など資源エネルギー需給のひっ迫」
- K 「食の安全性に対する意識の高まり」

### （1）社会情勢の全体的評価

帯広市を取り巻く社会情勢について、「プラス」要因とされた項目のなかでは、「食の安全性に対する意識の高まり」、「高速道路の札幌圏への延長」の割合が高く、市民生活における安全性や利便性に対する期待が伺えます。

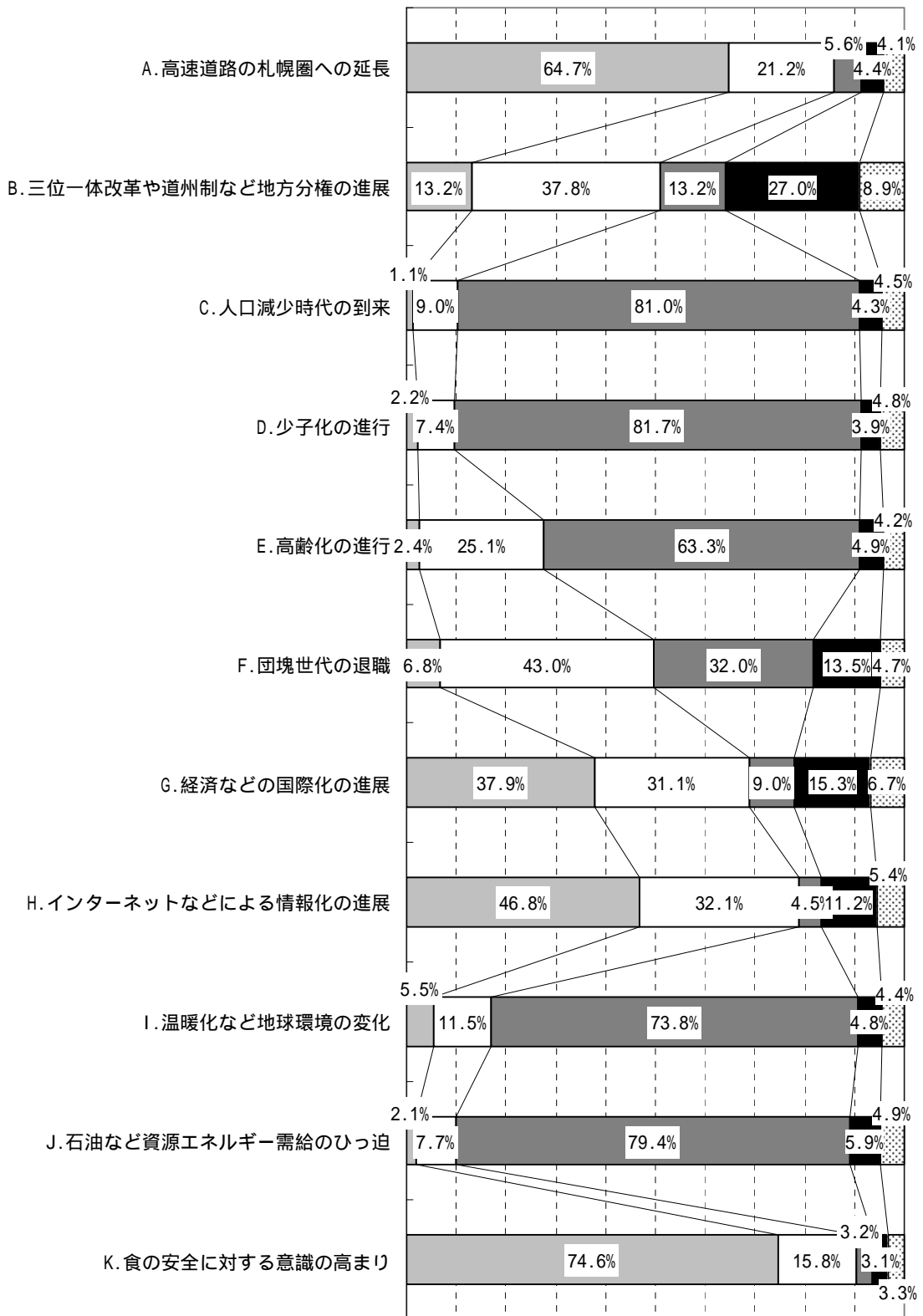
一方で、「マイナス」要因とされた項目は、「少子化の進行」「人口減少時代の到来」「石油などのエネルギー需給のひっ迫」などであり、将来のまちの活性化や経済情勢、環境などに対して懸念していることが伺われます。

「どちらとも言えない」に分類される項目としては、「団塊世代の退職」「三位一体改革や道州制など地方分権の進展」が挙げられます。

これらを分類すると次の表のとおりとなります。

プラス	どちらとも言えない	マイナス
K. 食の安全性に対する意識の高まり A. 高速道路の札幌圏への延長 H. インターネットなどによる情報化の進展 G. 経済などの国際化の進展	F. 団塊世代の退職 B. 三位一体改革や道州制など地方分権の進展	D. 少子化の進行 C. 人口減少時代の到来 J. 石油など資源エネルギー需給のひっ迫 I. 温暖化など地球環境の変化 E. 高齢化の進行

□ プラスとなる □ どちらとも言えない ■ マイナスとなる ■ わからない □ 無回答・無効

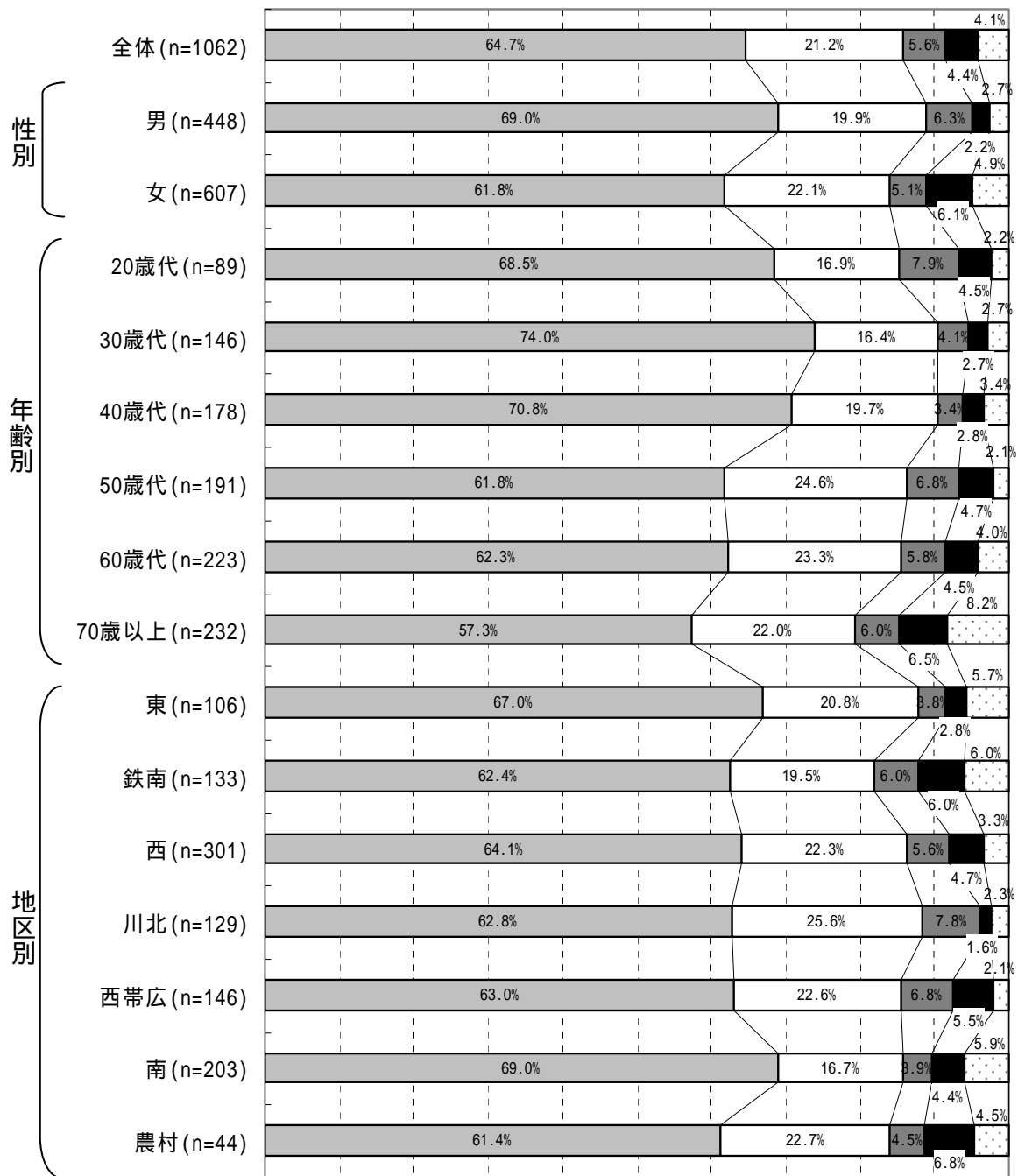


(2) 社会情勢の項目別の評価

問6-A 高速道路の札幌圏への延長

「プラス」の評価が全体で64.7%と高くなっており、特に20～40歳代の評価が高くなっています。

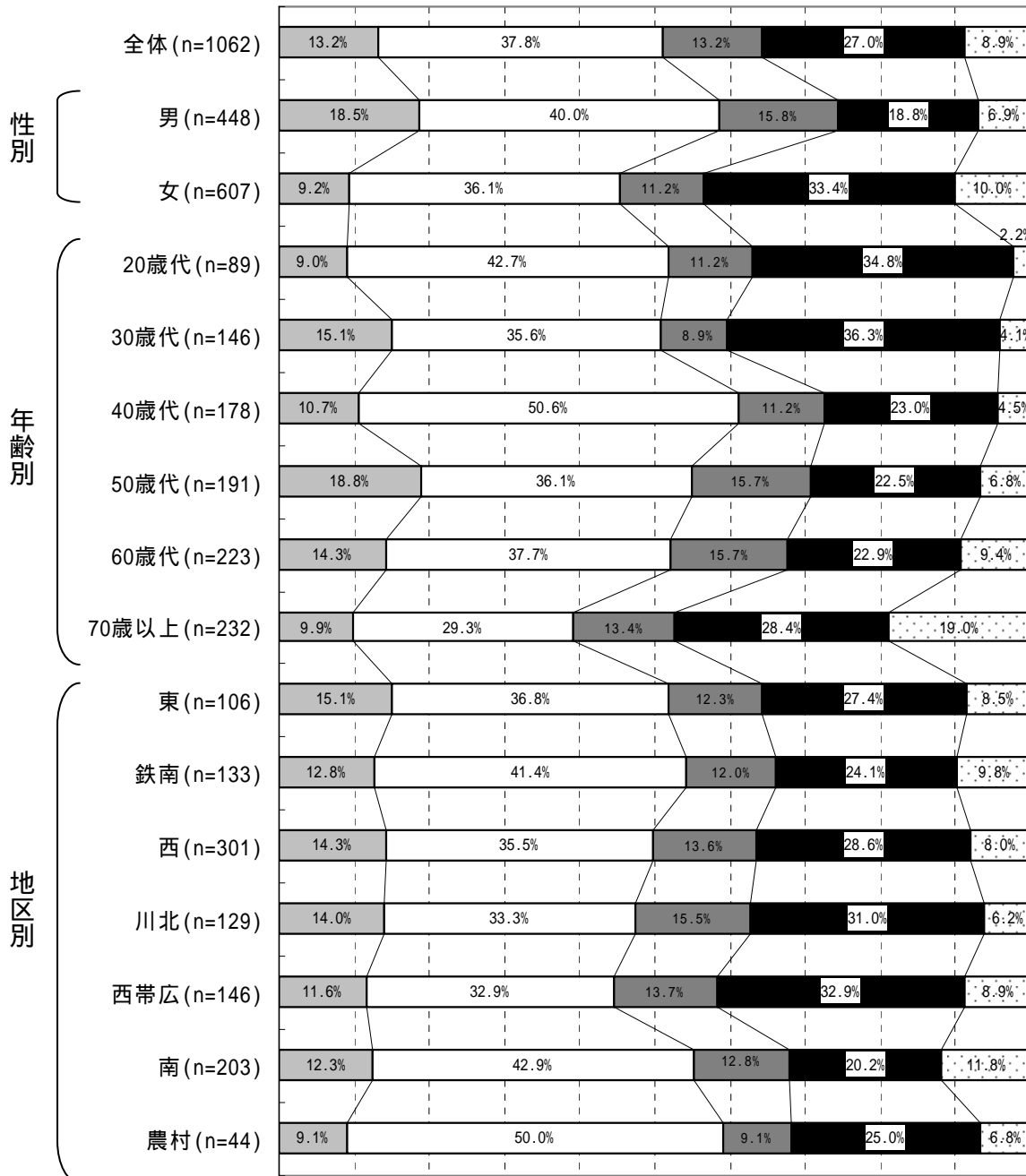
□ プラスとなる □ どちらとも言えない ■ マイナスとなる ■ わからない □ 無回答・無効



問 6 - B 三位一体改革や道州制など地方分権の進展

「どちらとも言えない」「わからない」の回答が全体の半数以上を占めていますが、「プラス」と「マイナス」の評価は、ほぼ同じ割合となっており、意見が分かれています。

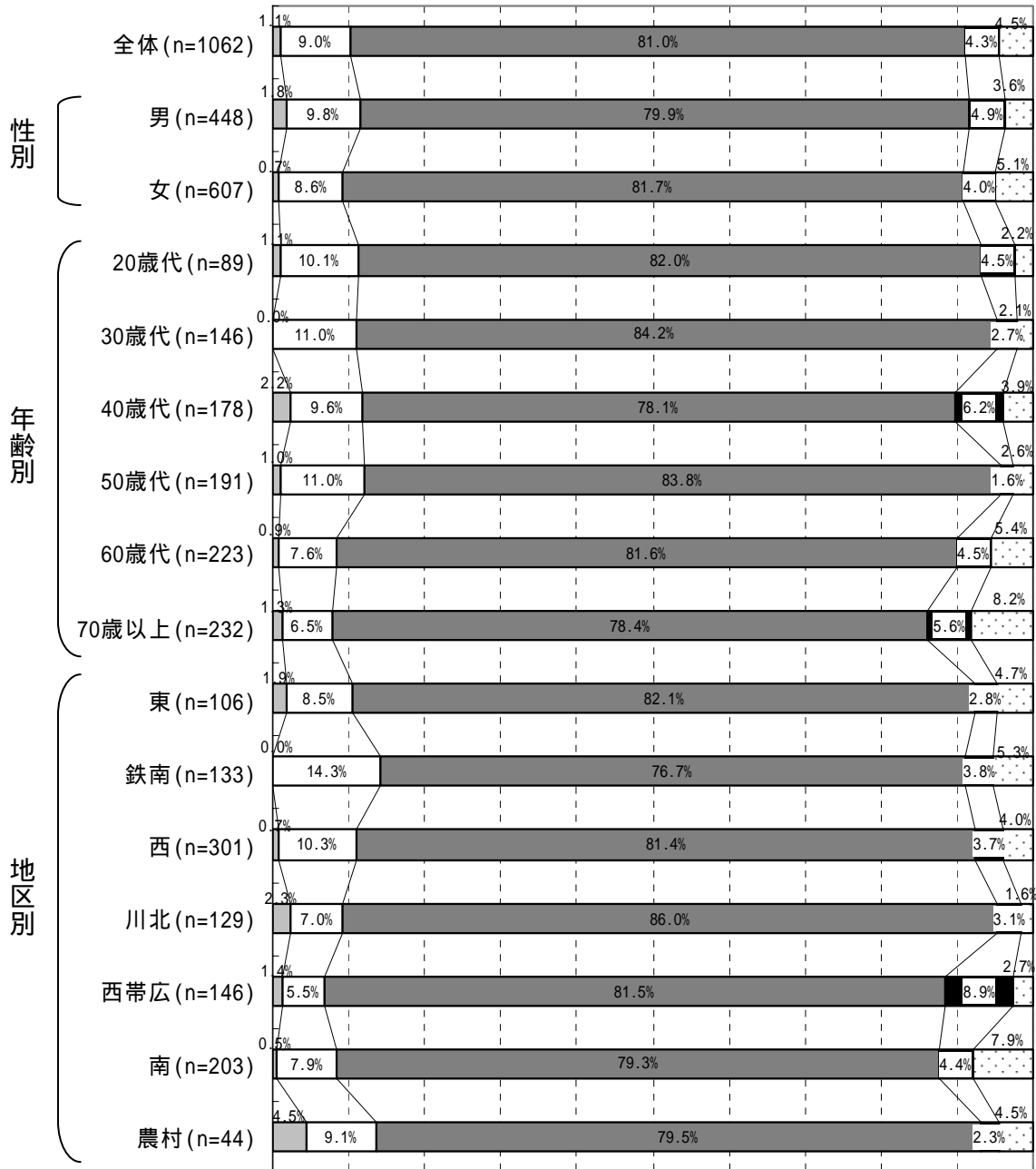
□ プラスとなる □ どちらとも言えない ■ マイナスとなる ■ わからない □ 無回答・無効



問 6 - C 人口減少時代の到来

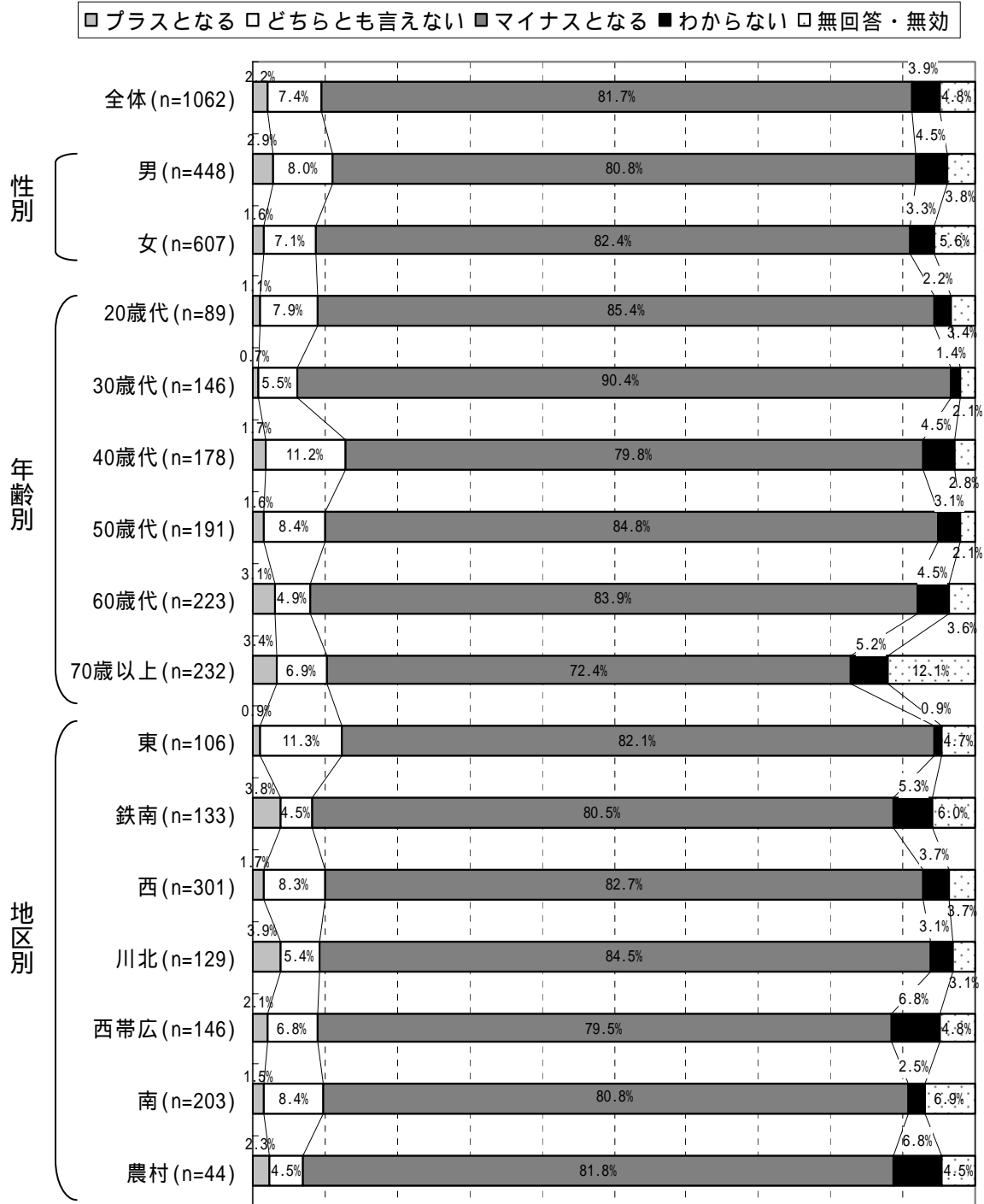
「マイナス」の評価が全体で 81.0%と高くなっています。人口減少が地域にとって大きな課題と受けとめられています。

□ プラスとなる □ どちらとも言えない □ マイナスとなる ■ わからない □ 無回答・無効



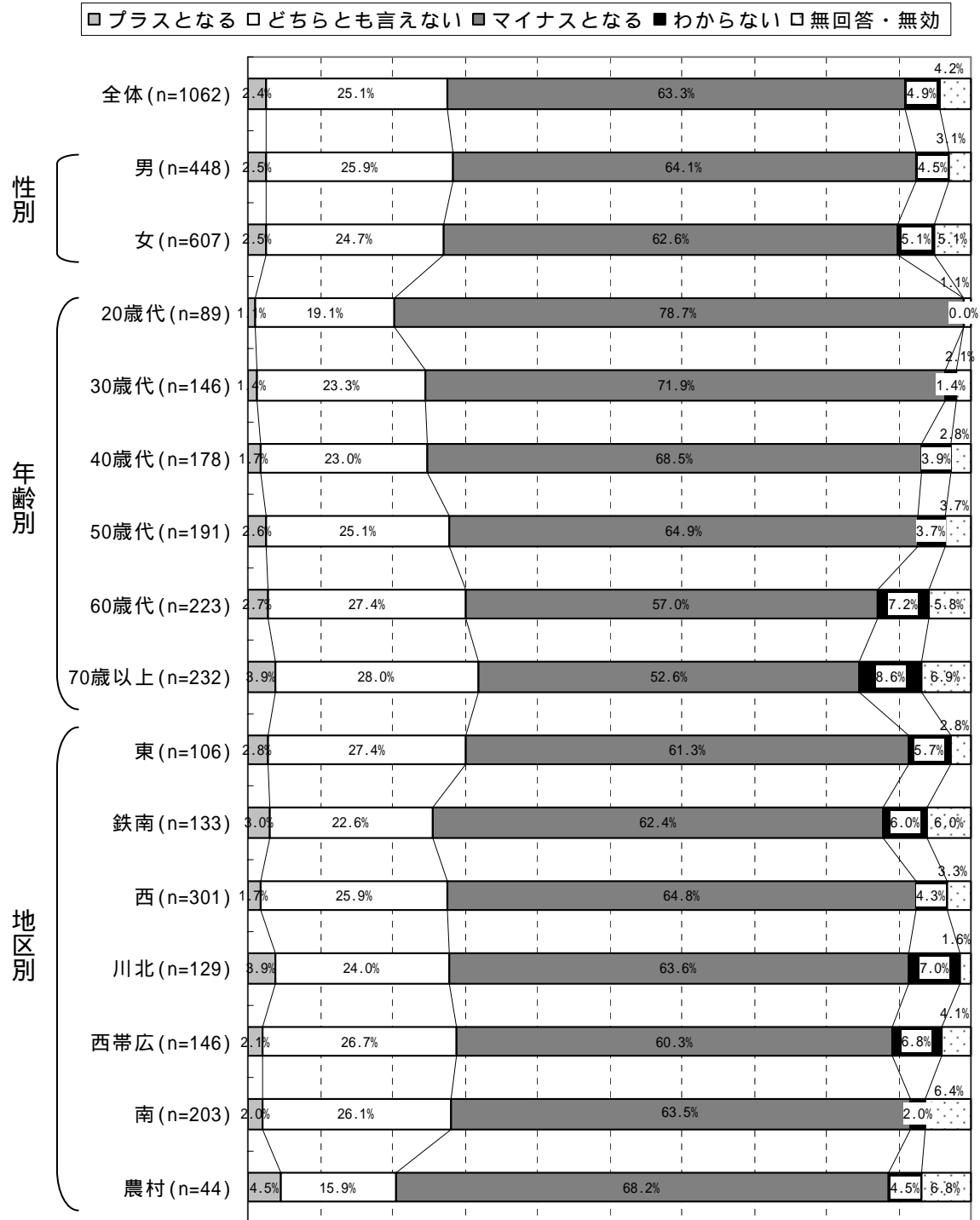
問 6 - D 少子化の進行

「マイナス」の評価が全体で 81.7%と高くなっています。前項の人口減少とともに、少子化についても地域の大きな課題と受けとめられています。



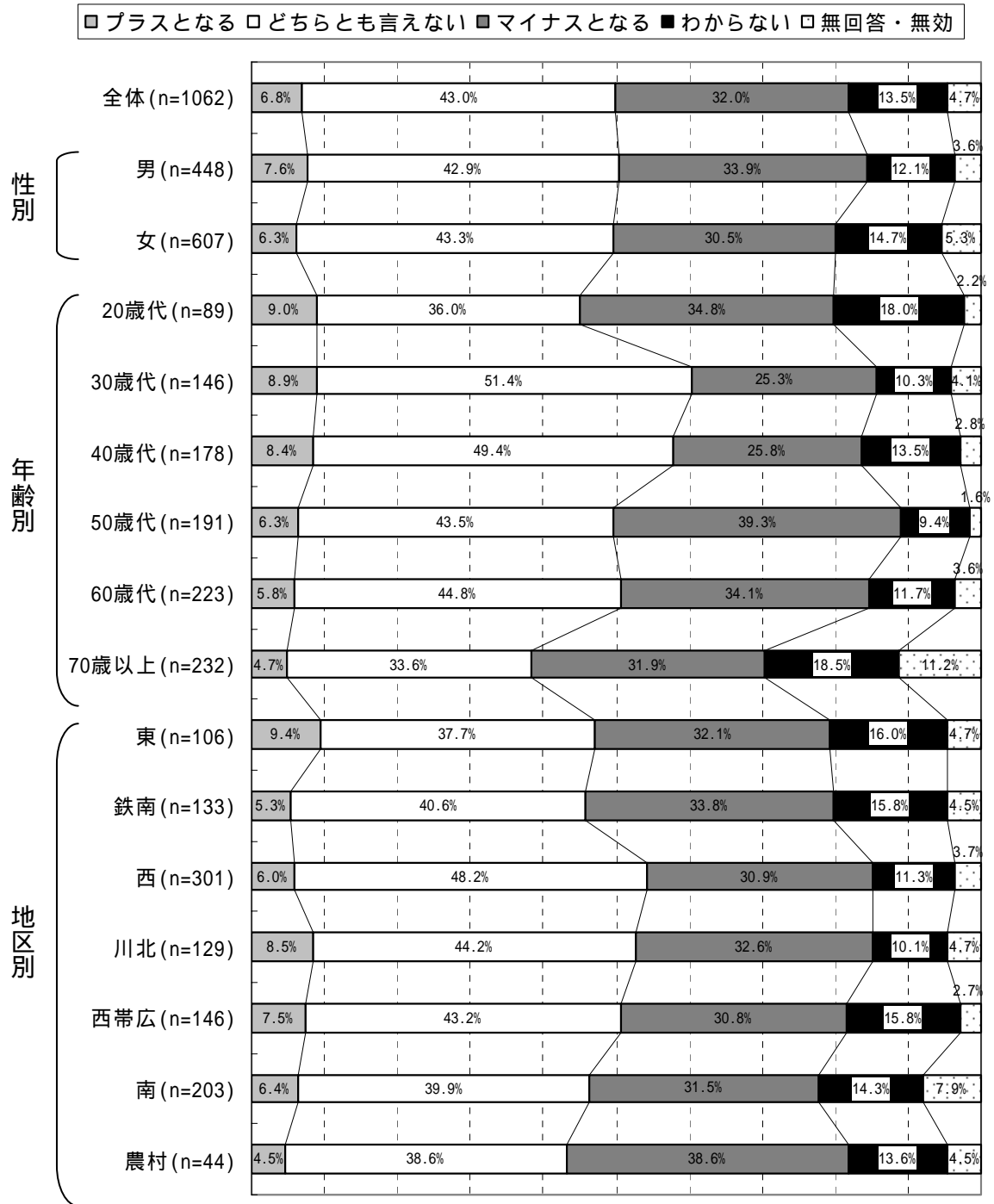
問 6 - E 高齢化の進行

「マイナス」の評価が全体で 63.3%と多くなっていますが、「どちらともいえない」も 25.1%の回答がありました。少子化の進行とともに高齢化の進行も大きな課題と受けとめられており、年齢が若くなるに従ってその傾向が強くなっています。



問 6 - F 団塊世代の退職

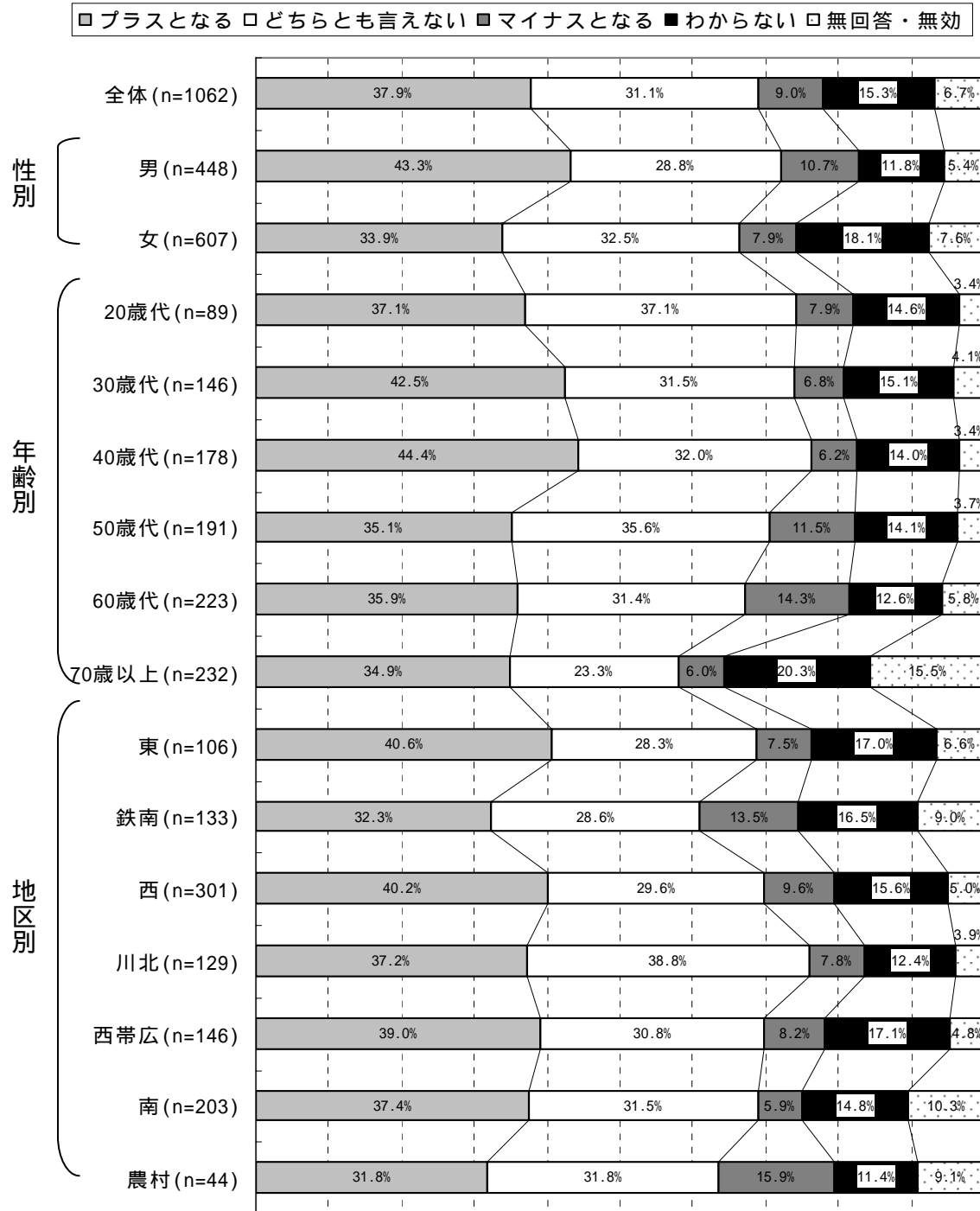
「どちらとも言えない」「わからない」の回答が全体の半数以上を占めていますが、「マイナス」の評価が「プラス」の評価を大きく上回っており、どちらかというとな「マイナス」の要因と受けとめられています。





問 6 - G 経済などの国際化の進展

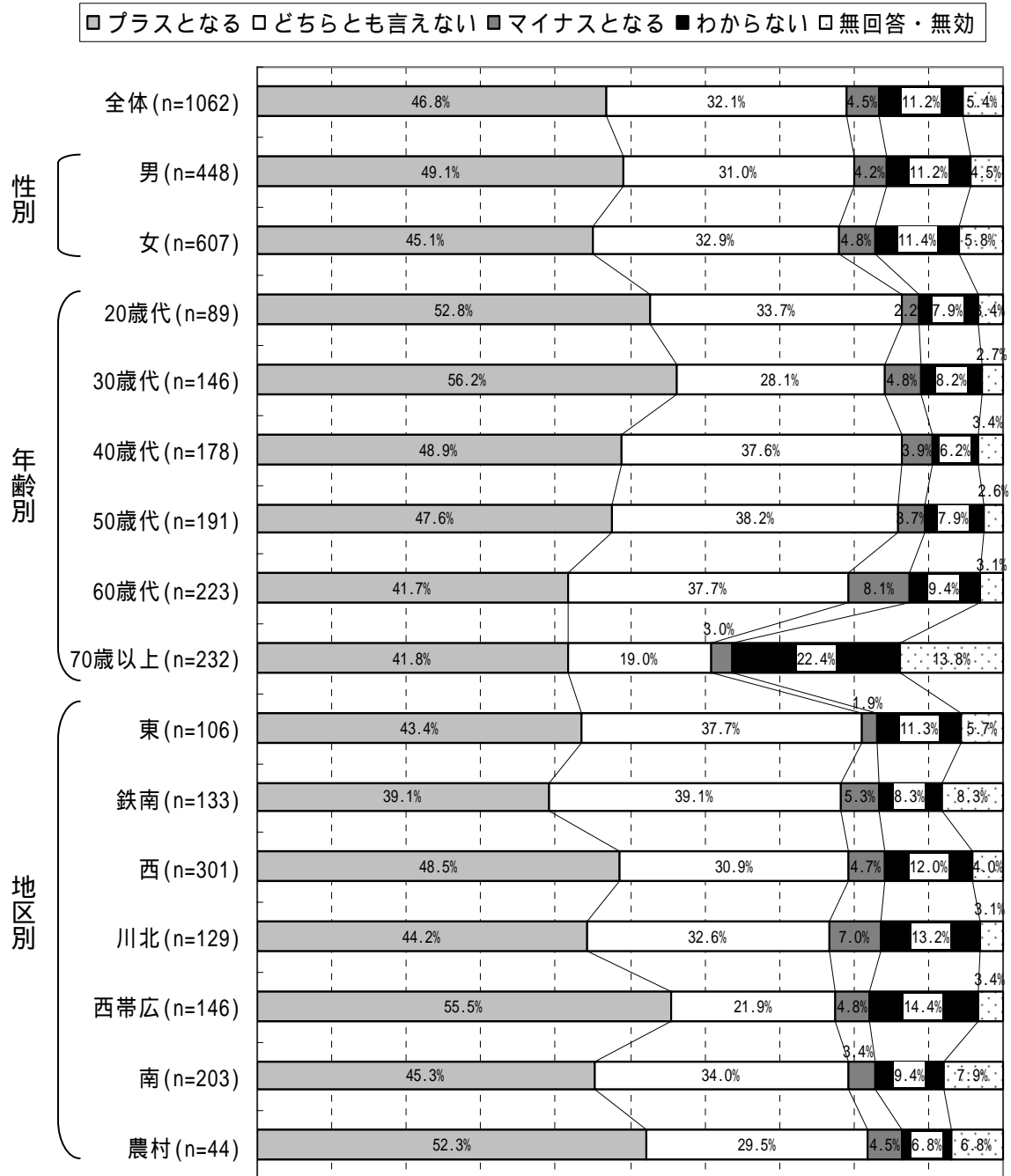
「プラス」の評価が全体で 37.9%と高くなっていますが、「どちらとも言えない」も 31.1%の回答がありました。



問6-H インターネットなどによる情報化の進展

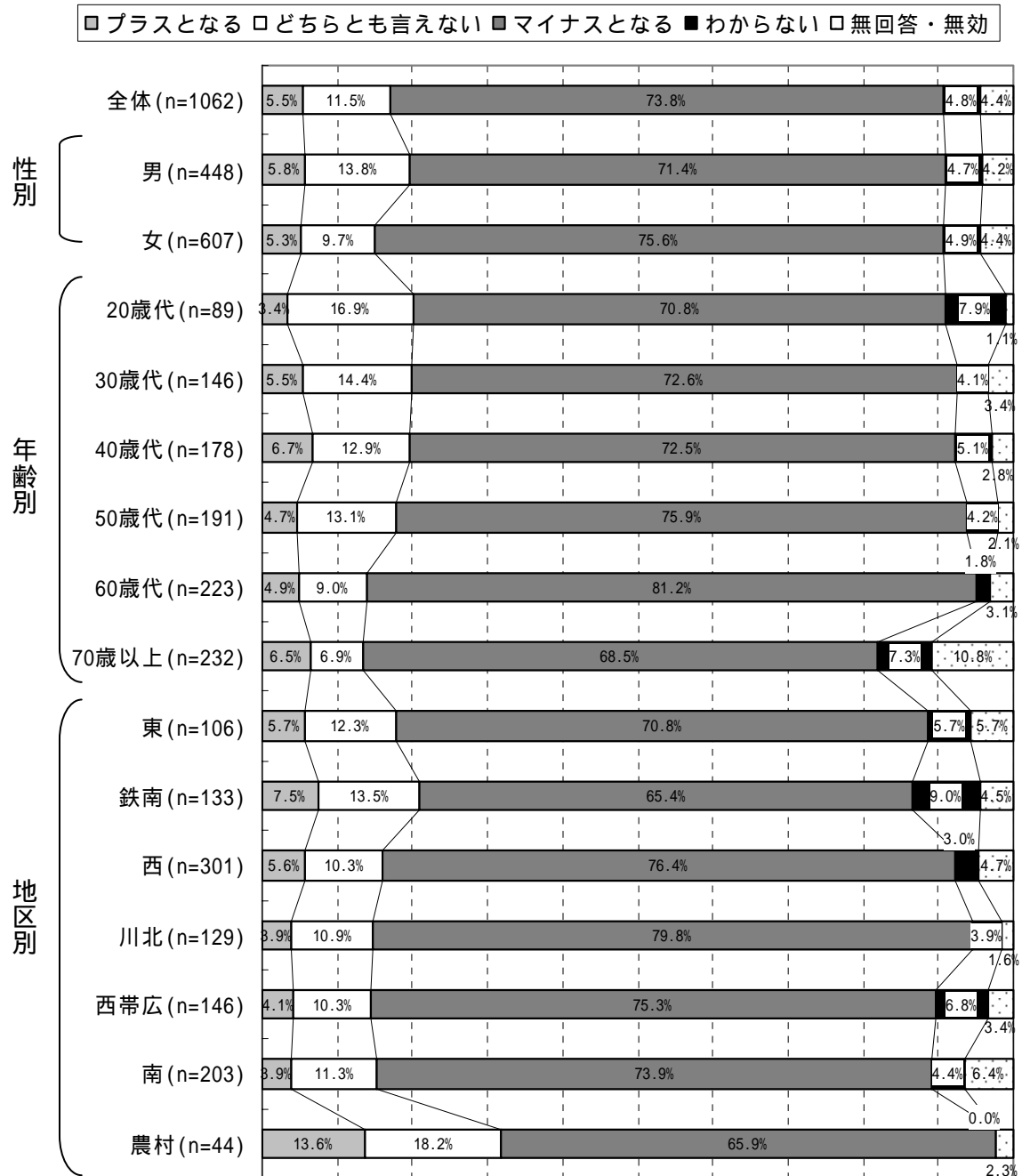
「プラス」の評価が全体で 46.8%と高くなっていますが、「どちらとも言えない」の回答も比較的多くなっています。

年齢別では、若くなるに従い「プラス」の評価が高くなる傾向が見られ、70歳以上では「わからない」の回答が多くなっています。



問 6 - I 温暖化など地球環境の変化

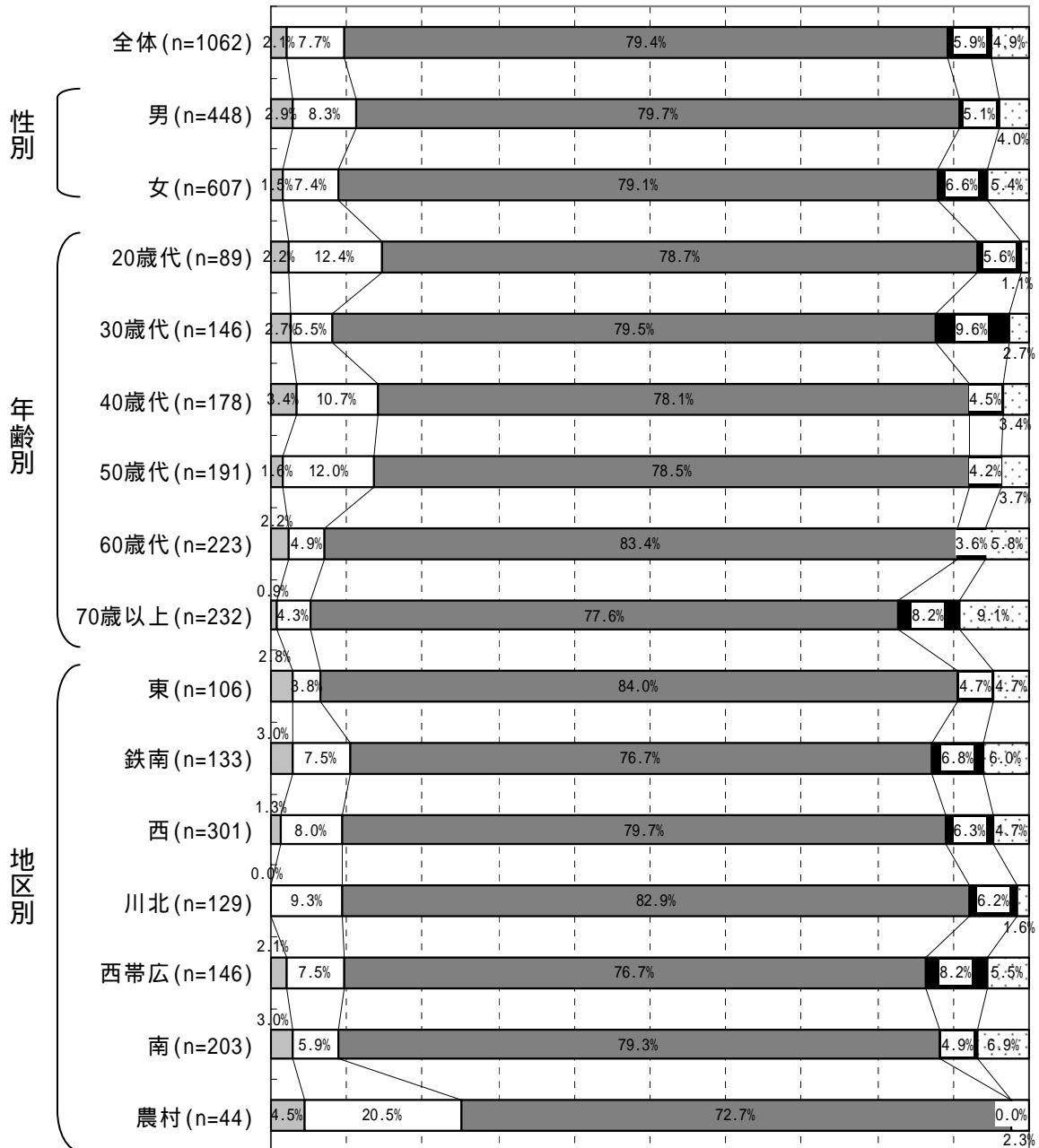
「マイナス」の評価が全体で 73.8%と高くなっていますが、地区別では、農村地区では「プラス」の評価が比較的多くなっています。



問6-J 石油など資源エネルギー需給のひっ迫

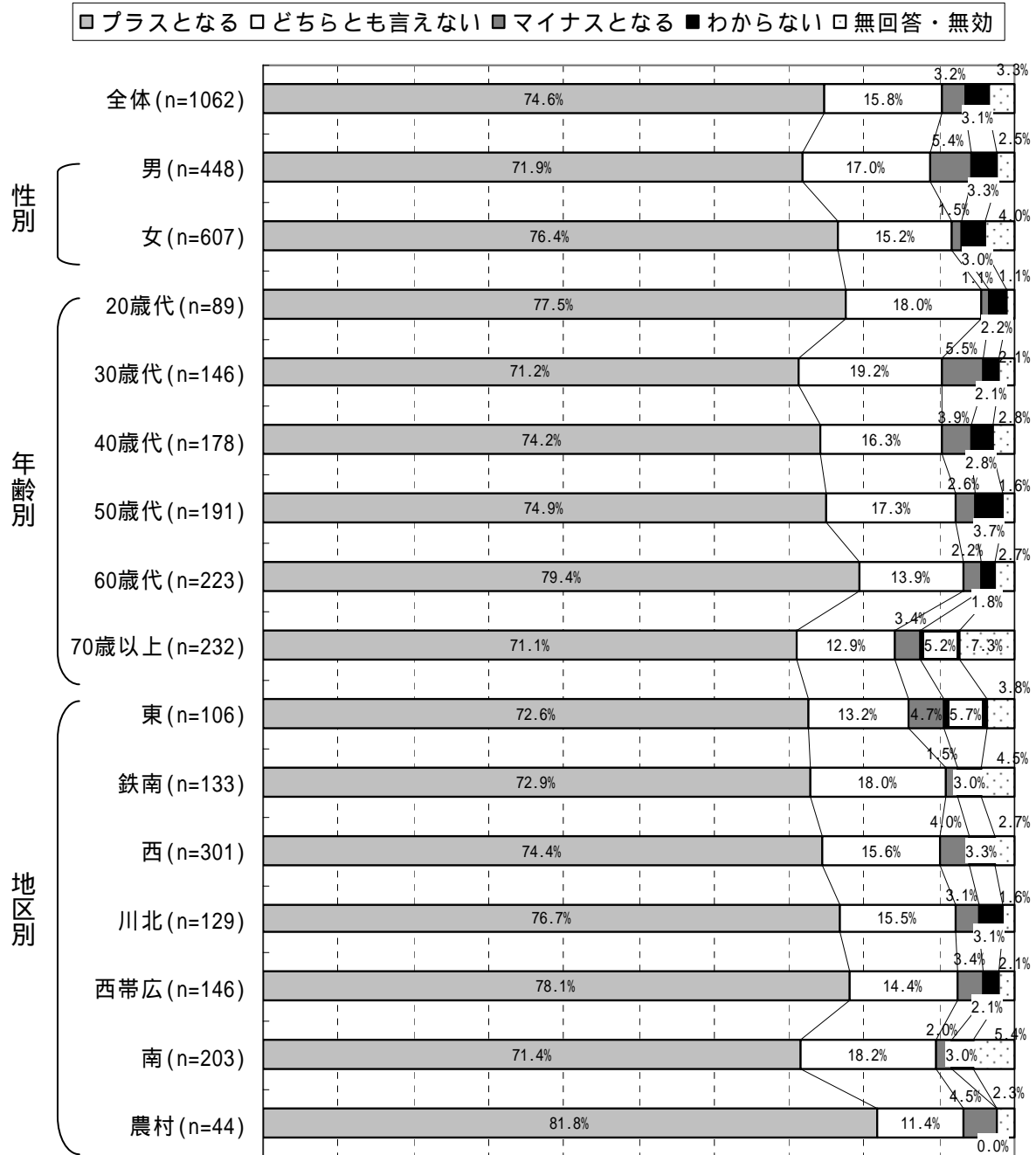
「マイナス」の評価が全体で 79.4%と高くなっていますが、農村地区では「プラス」の評価がやや高く、「どちらとも言えない」の回答も多くなっています。

□ プラスとなる □ どちらとも言えない ■ マイナスとなる ■ わからない □ 無回答・無効



問 6 - K 食の安全に対する意識の高まり

「プラス」の評価が全体で 74.6%と高くなっており、特に農村地区で食料を生産している地域の特性として「プラス」の評価が高くなっています。



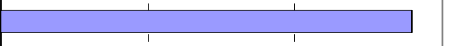





## 5 . これからのまちづくりの方向性について【問7、問8】

問7 全国的に人口減少の時代に入っていますが、帯広市はこれにどのように対応すべきだと思いますか。あなたのお考えに近いものを1つ選んでください。

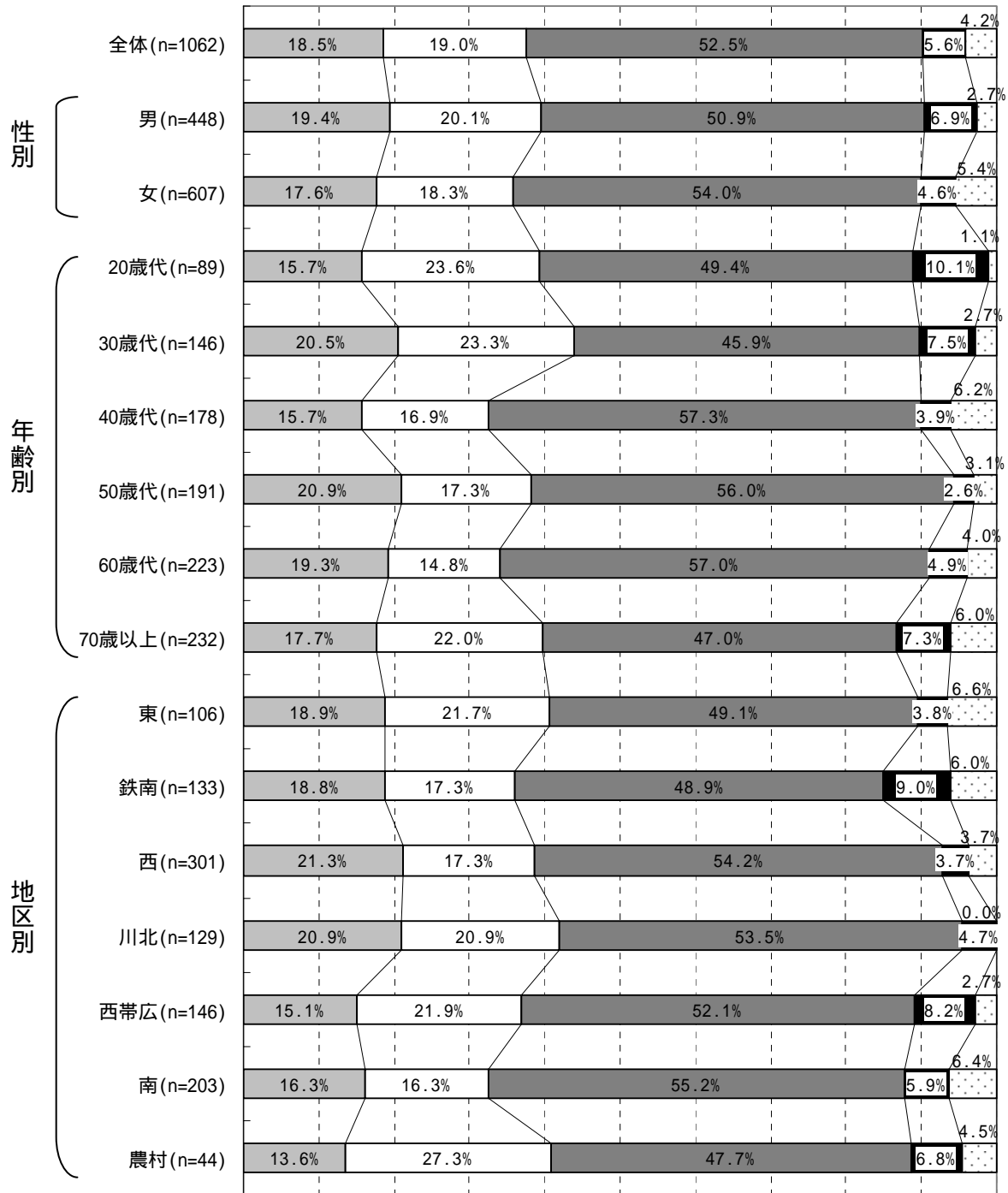
- 1 . 人口の増加をめざす
- 2 . 人口の減少を最小限にとどめる
- 3 . 全国的な人口減少を踏まえ、人口減少を前提としたまちづくりをしていく
- 4 . その他

人口減少時代への対応方向については、「全国的な人口減少を踏まえ、人口減少を前提としたまちづくりをしていく」が52.5%と、「人口の増加をめざす」の18.5%、「人口の減少を最小限にとどめる」の19.0%を大きく上回っています。

選択肢	件数（割合）	回答件数
人口の増加をめざす	197 （18.5%）	
人口の減少を最小限にとどめる	202 （19.0%）	
全国的な人口減少を踏まえ、人口減少を前提としたまちづくりをしていく。	558 （52.5%）	
その他	60 （5.6%）	
無回答・無効	45 （4.2%）	
計	1,062 （100.0%）	

問7 人口減少時代への対応方向（クロス集計）

- 1.人口の増加をめざす
- 2.人口の減少を最小限にとどめる
- 3.全国的な人口減少を踏まえ、人口減少を前提としたまちづくりをしていく
- 4.その他
- 5.無回答・無効

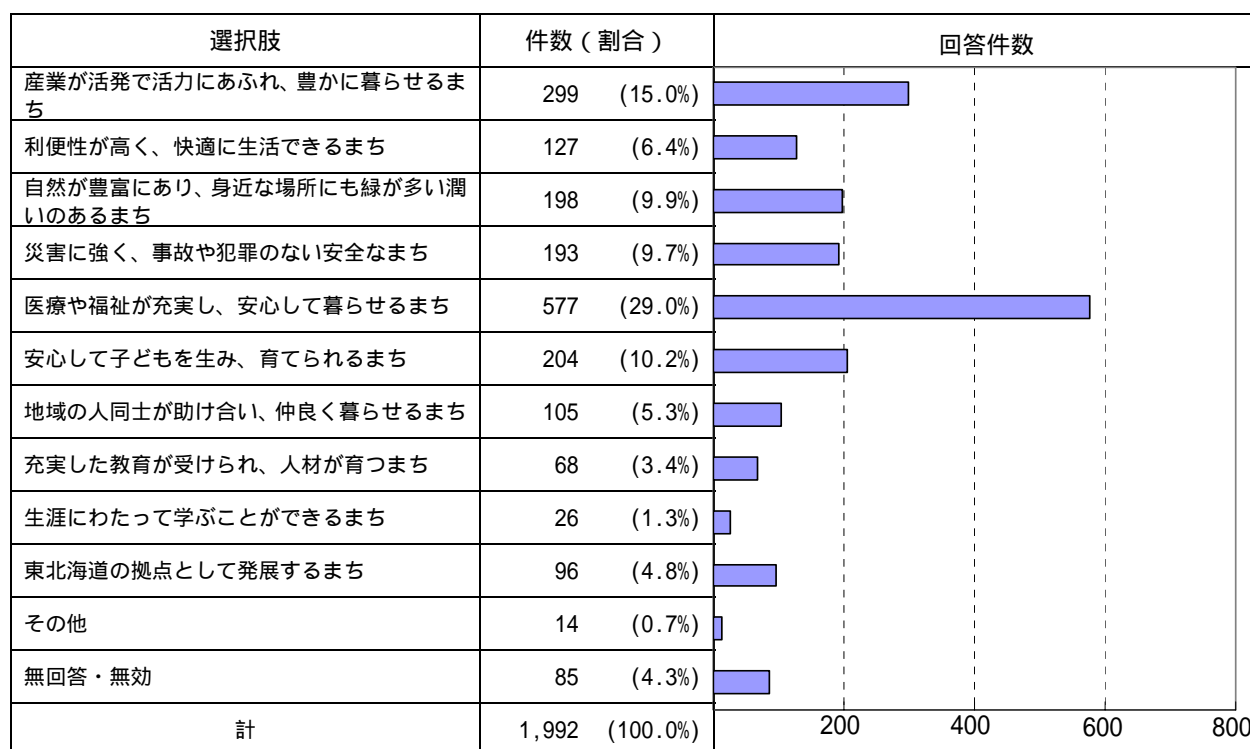


問 8 あなたにとって、帯広市は将来どのようなまちになってほしいと思いますか。2つまで選んでください。

1. 産業が活発で活力にあふれ、豊かに暮らせるまち
2. 利便性が高く、快適に生活できるまち
3. 自然が豊富にあり、身近な場所にも緑が多い潤いのあるまち
4. 災害に強く、事故や犯罪のない安全なまち
5. 医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち
6. 安心して子どもを生み、育てられるまち
7. 地域の人同士が助け合い、仲良く暮らせるまち
8. 充実した教育が受けられ、人材が育つまち
9. 生涯にわたって学ぶことができるまち
10. 東北道の拠点として発展するまち
11. その他

帯広市の将来に望まれるまちの姿は「医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち」が29.0%と最も多く、次いで「産業が活発で活力にあふれ、豊かに暮らせるまち」15.0%、「安心して子どもを生み、育てられるまち」が10.2%と続き、安心、安全な暮らしへの志向が高いことが伺われます。

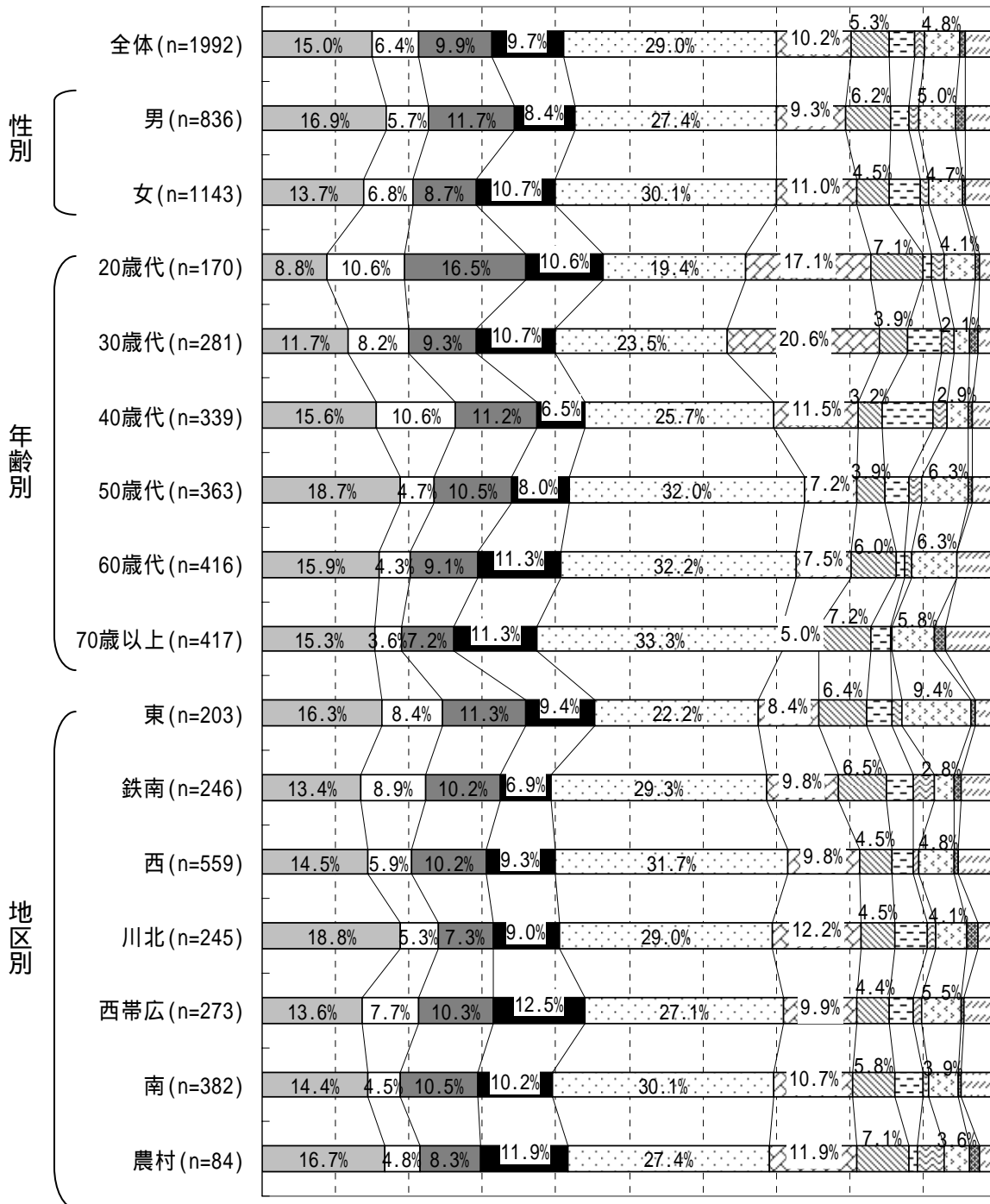
年齢別では「医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち」は年齢層が高くなるほど多く、「安心して子どもを生み、育てられるまち」は年齢層が若くなるほど多くなる傾向がみられます。





### 問8 帯広市の将来に望まれるまちの姿（クロス集計）

- |                                  |                          |
|----------------------------------|--------------------------|
| □ 1. 産業が活発で活力にあふれ、豊かに暮らせるまち      | □ 2. 利便性が高く、快適に生活できるまち   |
| ■ 3. 自然が豊富にあり、身近な場所にも緑が多い潤いのあるまち | ■ 4. 災害に強く、事故や犯罪のない安全なまち |
| □ 5. 医療や福祉が充実し、安心して暮らせるまち        | □ 6. 安心して子どもを生み、育てられるまち  |
| □ 7. 地域の人同士が助け合い、仲良く暮らせるまち       | □ 8. 充実した教育が受けられ、人材が育つまち |
| □ 9. 生涯にわたって学ぶことができるまち           | □ 10. 東北道の拠点として発展するまち    |
| ■ 11. その他                        | □ 12. 無回答・無効             |



## 6. 市民協働について【問9～11】

問9 あなたは、よりよいまちづくりのための活動をしたいと思いますか。  
1つ選んでください。

1. 積極的に活動したい
2. 機会があれば活動したい
3. どちらともいえない
4. あまり活動したいとは思わない
5. 活動したくない

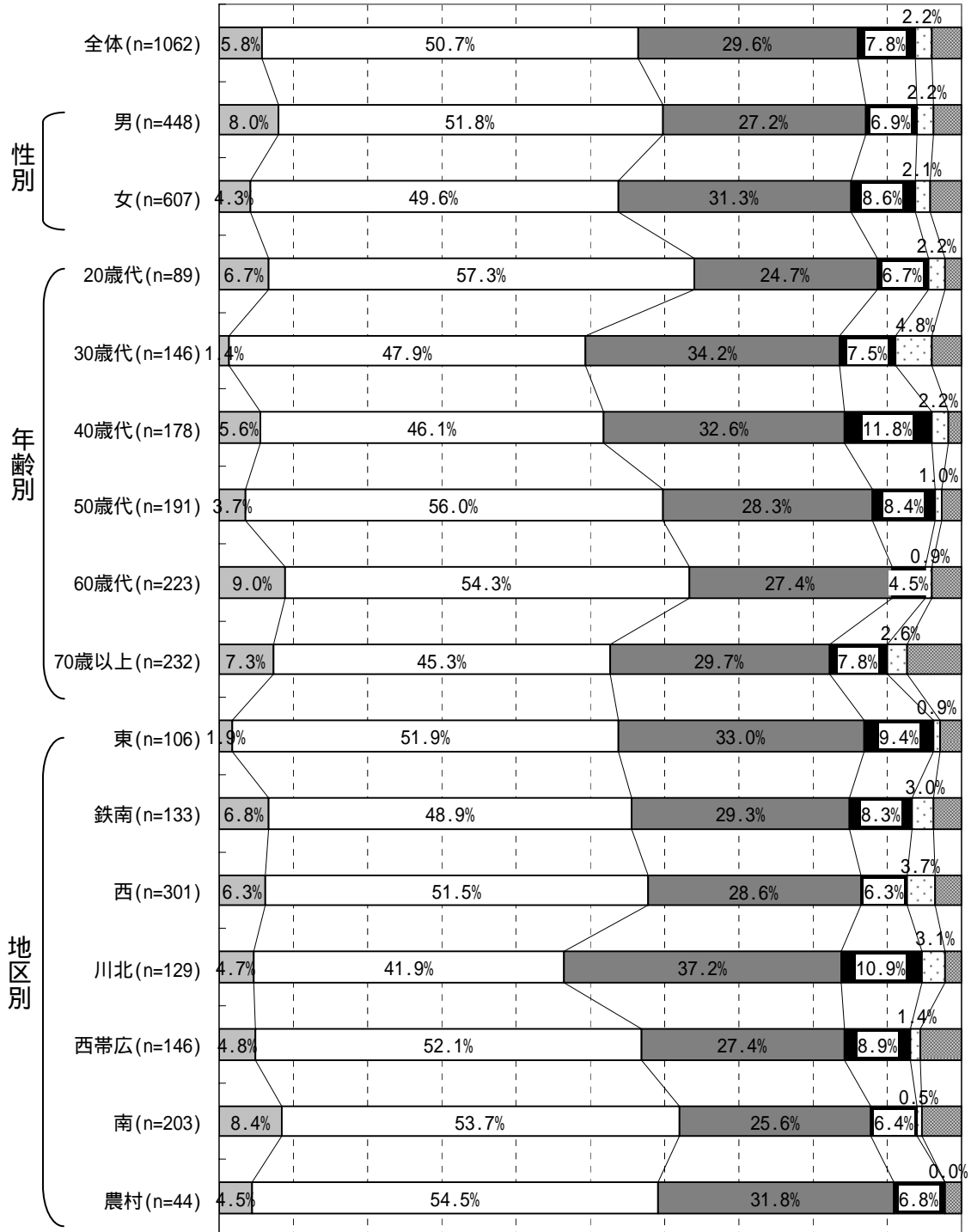
まちづくりの活動に対する意識は、「機会があれば活動したい」が50.7%と最も多く、「どちらともいえない」が29.6%と続いており、「あまり活動したいとは思わない」は7.8%、「活動したくない」は2.2%となっています。積極的に、あるいは機会があれば活動したいと考えている市民は半数以上を占めており、協働への関心は比較的高くなっています。

年齢別では、「積極的に活動したい」「機会があれば活動したい」の合計は、30歳代から60歳代までは年齢が高くなるほど多くなる傾向にありますが、20歳代が最も多くなっていることも特徴となっています。

選択肢	件数（割合）	回答件数
積極的に活動したい	62 (5.8%)	
機会があれば活動したい	538 (50.7%)	
どちらともいえない	314 (29.6%)	
あまり活動したいとは思わない	83 (7.8%)	
活動したくない	23 (2.2%)	
無回答・無効	42 (4.0%)	
計	1,062 (100.0%)	

問9 まちづくりへの参加（クロス集計）

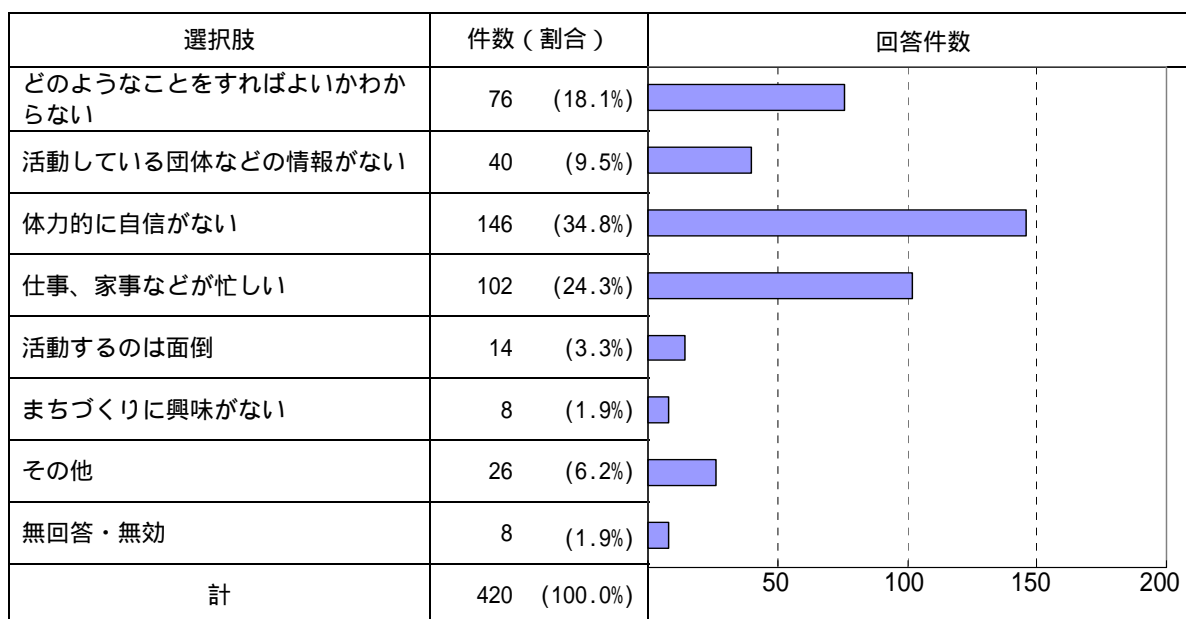
- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| □ 1.積極的に活動したい | □ 2.機会があれば活動したい    |
| ■ 3.どちらともいえない | ■ 4.あまり活動したいとは思わない |
| □ 5.活動したくない   | ■ 6.無回答・無効         |



問10 問9で3,4,5を選んだ主な理由は何ですか。1つ選んでください。

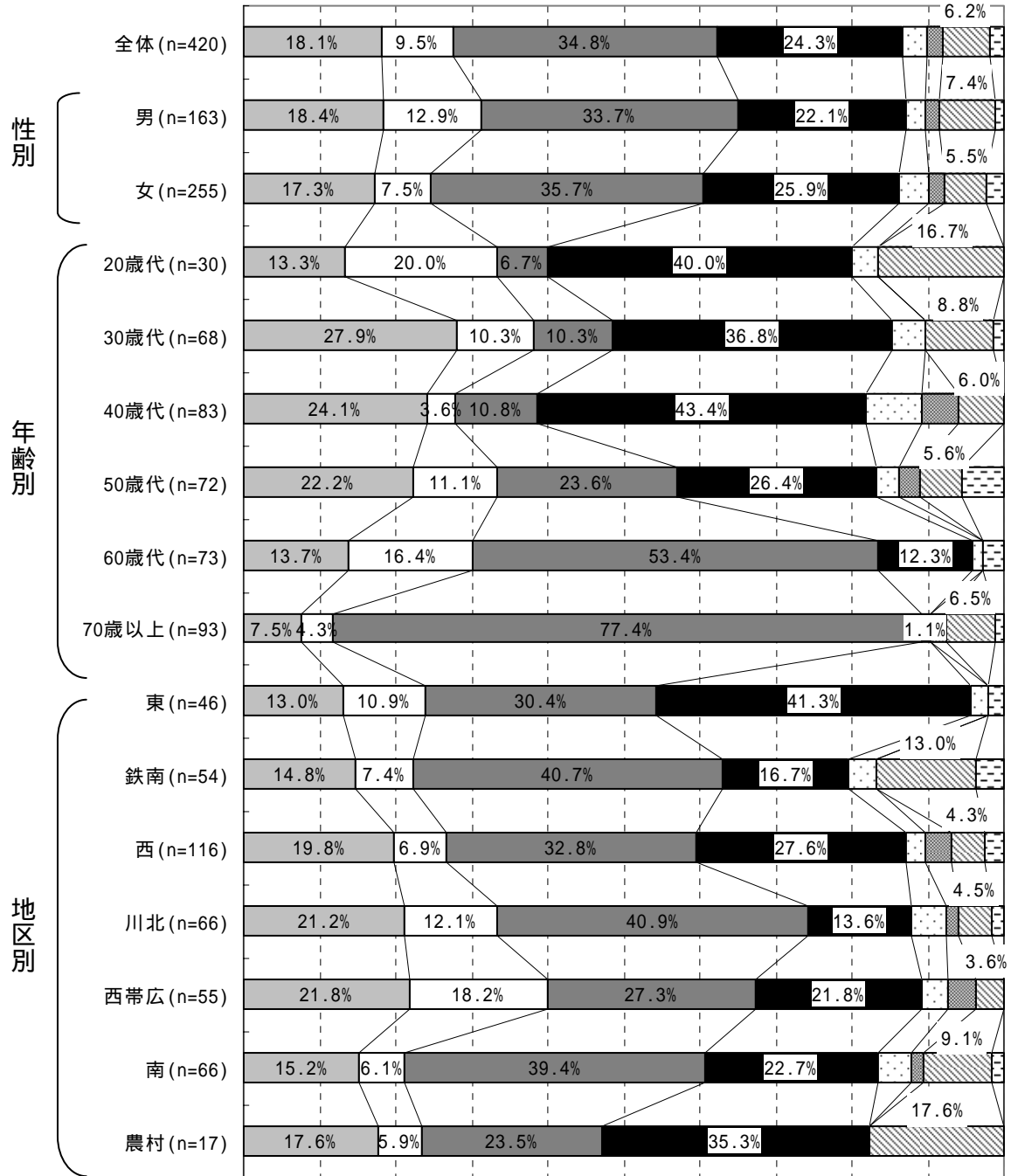
1. どのようなことをすればよいかわからない
2. 活動している団体などの情報がない
3. 体力的に自信がない
4. 仕事、家事などが忙しい
5. 活動するのは面倒
6. まちづくりに興味がない
7. その他

まちづくりの活動に積極的でない理由は、「体力的に自信がない」が34.8%と最も多く、次いで「仕事、家事などが忙しい」が24.3%、「どのようなことをすればよいかわからない」が18.1%と続いています。一方で「活動するのは面倒」は3.3%、「まちづくりに興味がない」は1.9%と少なく、まちづくり活動に対する意識よりも、個人の事情により活動できないとする理由が多くなっています。



問 10 まちづくりの活動に積極的でない理由（クロス集計）

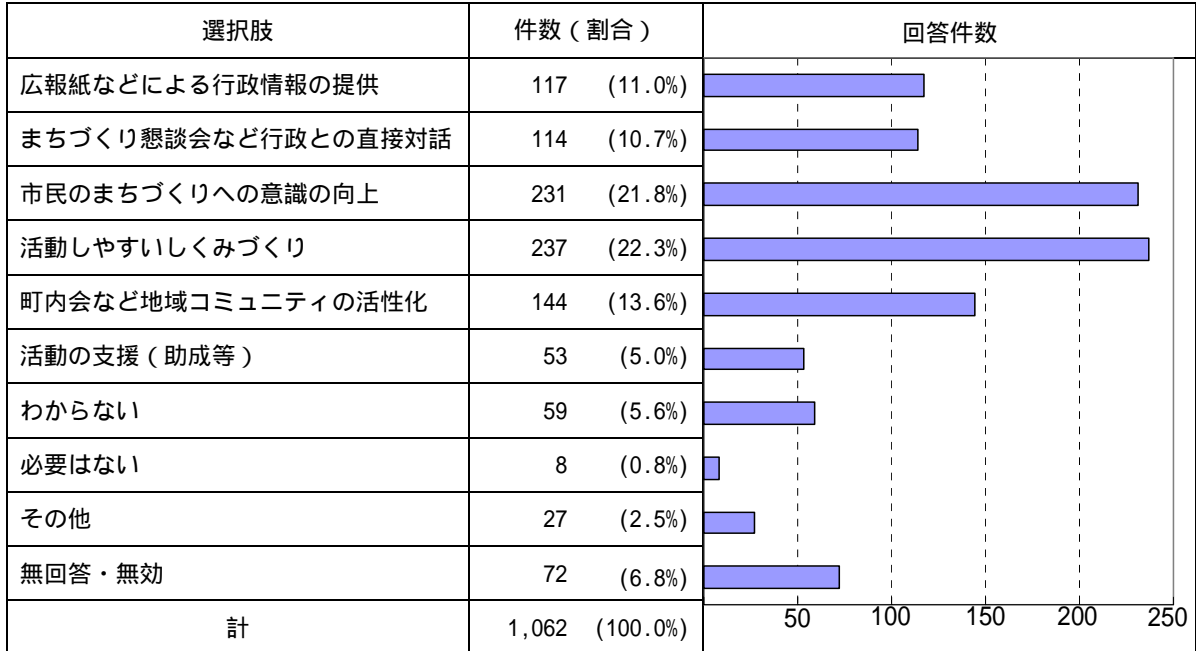
- 1. どのようなことをすればよいかわからない
- 2. 活動している団体などの情報がない
- 3. 体力的に自信がない
- 4. 仕事、家事などが忙しい
- 5. 活動するのは面倒
- 6. まちづくりに興味がない
- 7. その他
- 8. 無回答・無効



問 1 1 市民協働のまちづくりを進めるためには、特にどんなことが必要だと思いますか。1つ選んでください。

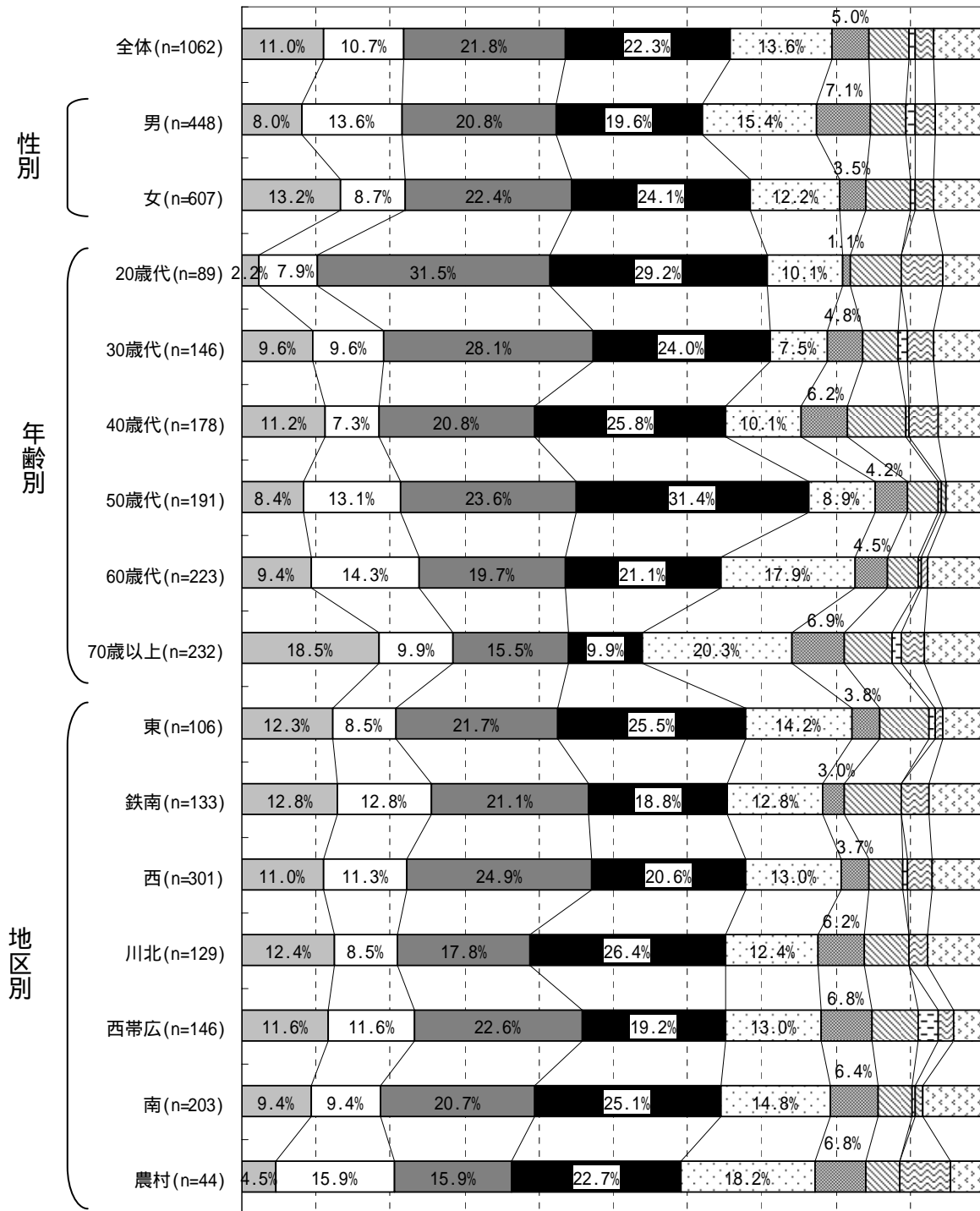
1. 広報紙などによる行政情報の提供
2. まちづくり懇談会など行政との直接対話
3. 市民のまちづくりへの意識の向上
4. 活動しやすいしくみづくり
5. 町内会など地域コミュニティの活性化
6. 活動の支援（助成等）
7. わからない
8. 必要はない
9. その他

市民協働のまちづくりを進めるためには、「活動しやすいしくみづくり」が必要であるとの意見が22.3%と最も多く、次いで「市民のまちづくりへの意識の向上」が21.8%と続き、協働のしくみづくりや主体的な住民の意識づくりが重要であるとの意識がみられます。特に若い世代で、意識の向上が必要との意見が多くなっています。



問 11 協働のまちづくりを進めるために必要なこと（クロス集計）

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| □ 1. 広報紙などによる行政情報の提供   | □ 2. まちづくり懇談会など行政との直接対話 |
| ■ 3. 市民のまちづくりへの意識の向上   | ■ 4. 活動しやすいしくみづくり       |
| □ 5. 町内会など地域コミュニティの活性化 | ■ 6. 活動の支援（助成等）         |
| □ 7. わからない             | □ 8. 必要はない              |
| □ 9. その他               | □ 10. 無回答・無効            |



## 7. 「広報おびひろ」について【問12～問14】

問12 「広報おびひろ」は毎月届いて（手に入れて）いますか。1つ選んでください。

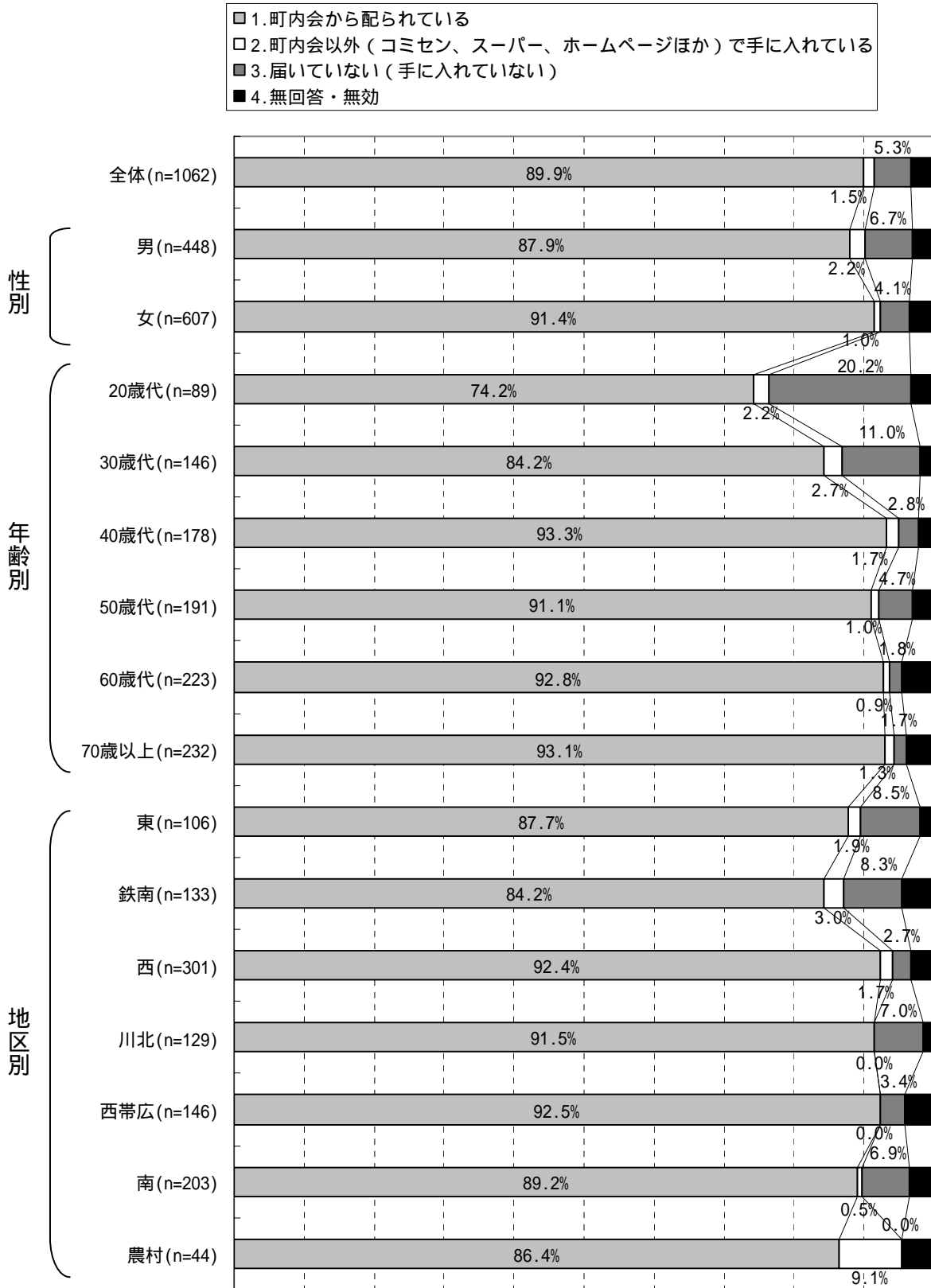
1. 町内会から配られている
2. 町内会以外（コミセン、スーパー、ホームページほか）で手に入れている
3. 届いていない（手に入れていない）

「広報おびひろ」の入手状況については、「町内会から配られている」「町内会以外で手に入れている」を合わせると、91.4%となっています。「届いていない（手に入れていない）」は5.3%となっており、年齢別でみると、20歳代の入手の割合が低くなっています。

選択肢	件数（割合）	回答件数
町内会から配られている	955 (89.9%)	
町内会以外（コミセン、スーパー、ホームページほか）で手に入れている	16 (1.5%)	
届いていない（手に入れていない）	56 (5.3%)	
無回答・無効	35 (3.3%)	
計	1,062 (100.0%)	500 1000



問 12 「広報おびひろ」の入手状況（クロス集計）



問 1 3 「広報おびひろ」のなかで、特にどの項目をよく読みますか。1つ選んでください。

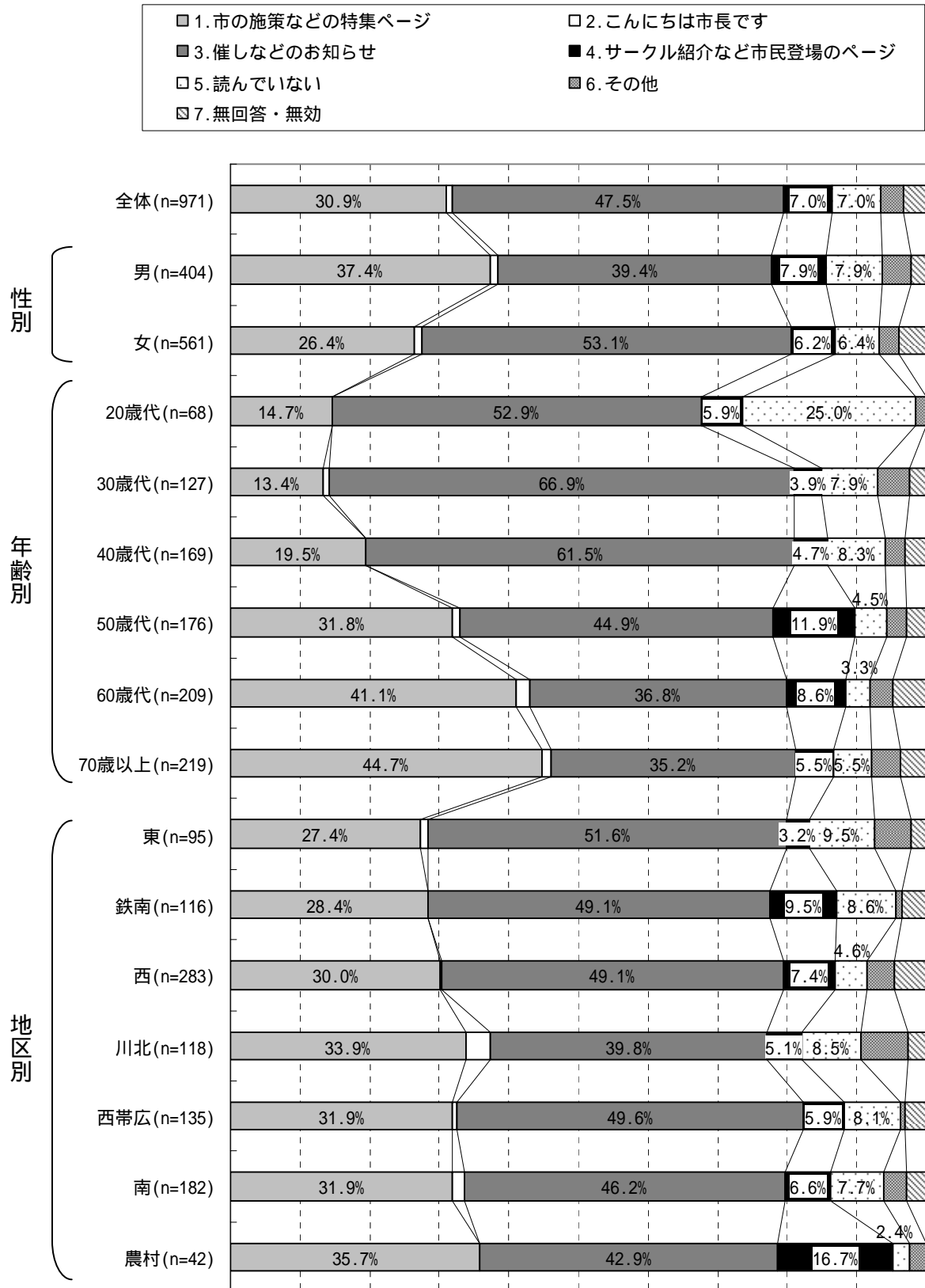
1. 市の施策などの特集ページ
2. こんにちは市長です
3. 催しなどのお知らせ
4. サークル紹介など市民登場のページ
5. 読んでいない
6. その他

「広報おびひろ」で特によく読まれている記事については、「催しなどのお知らせ」が47.5%と最も多く、次いで「市の施策などの特集ページ」が30.9%となっており、2項目で全体の78.4%を占めています。市民の暮らしに直接関係するお知らせと、市の取り組みなどの特集記事に関心が集まっています。

年齢別でみると、高い年齢になるほど「市の施策などの特集ページ」への関心が高く、若い年齢層では「催しなどのお知らせ」への関心が高くなっています。また、20歳代では、他の年代に比べて「読んでいない」の割合が多くなっています。

選択肢	件数(割合)	回答件数
市の施策などの特集ページ	300 (30.9%)	
こんにちは市長です	10 (1.0%)	
催しなどのお知らせ	461 (47.5%)	
サークル紹介など市民登場のページ	68 (7.0%)	
読んでいない	68 (7.0%)	
その他	33 (3.4%)	
無回答・無効	31 (3.2%)	
計	971 (100.0%)	

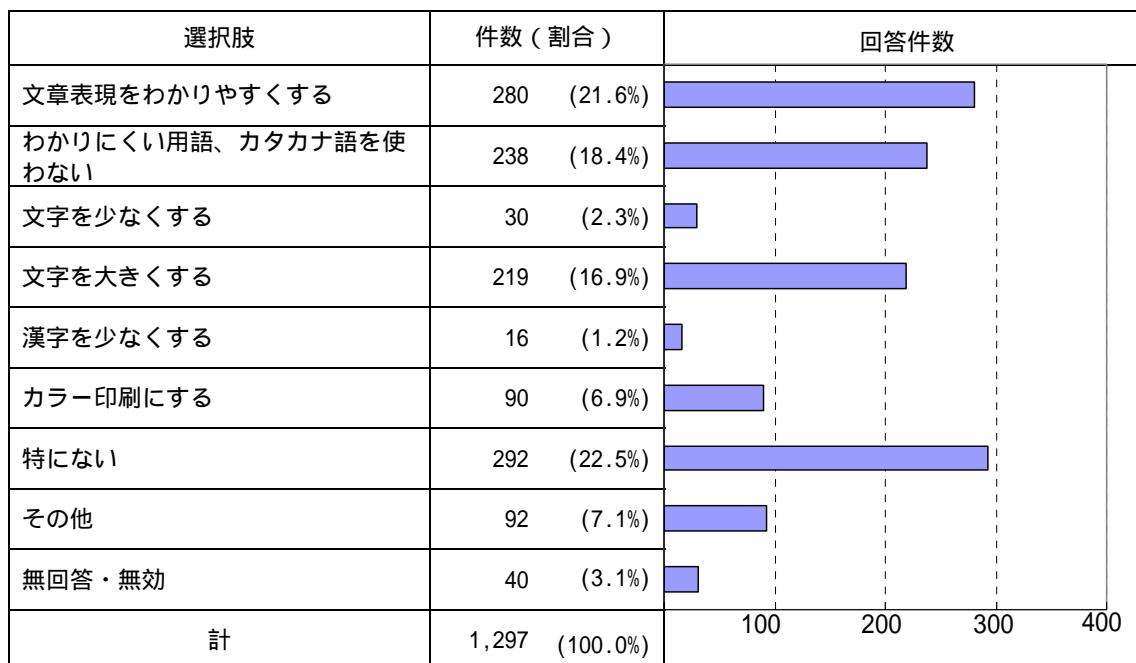
問 13 「広報おびひろ」のなかでよく読む項目（クロス集計）



問14 「広報おびひろ」で改善したほうがよいと思う点はありますか。1つ選んでください。

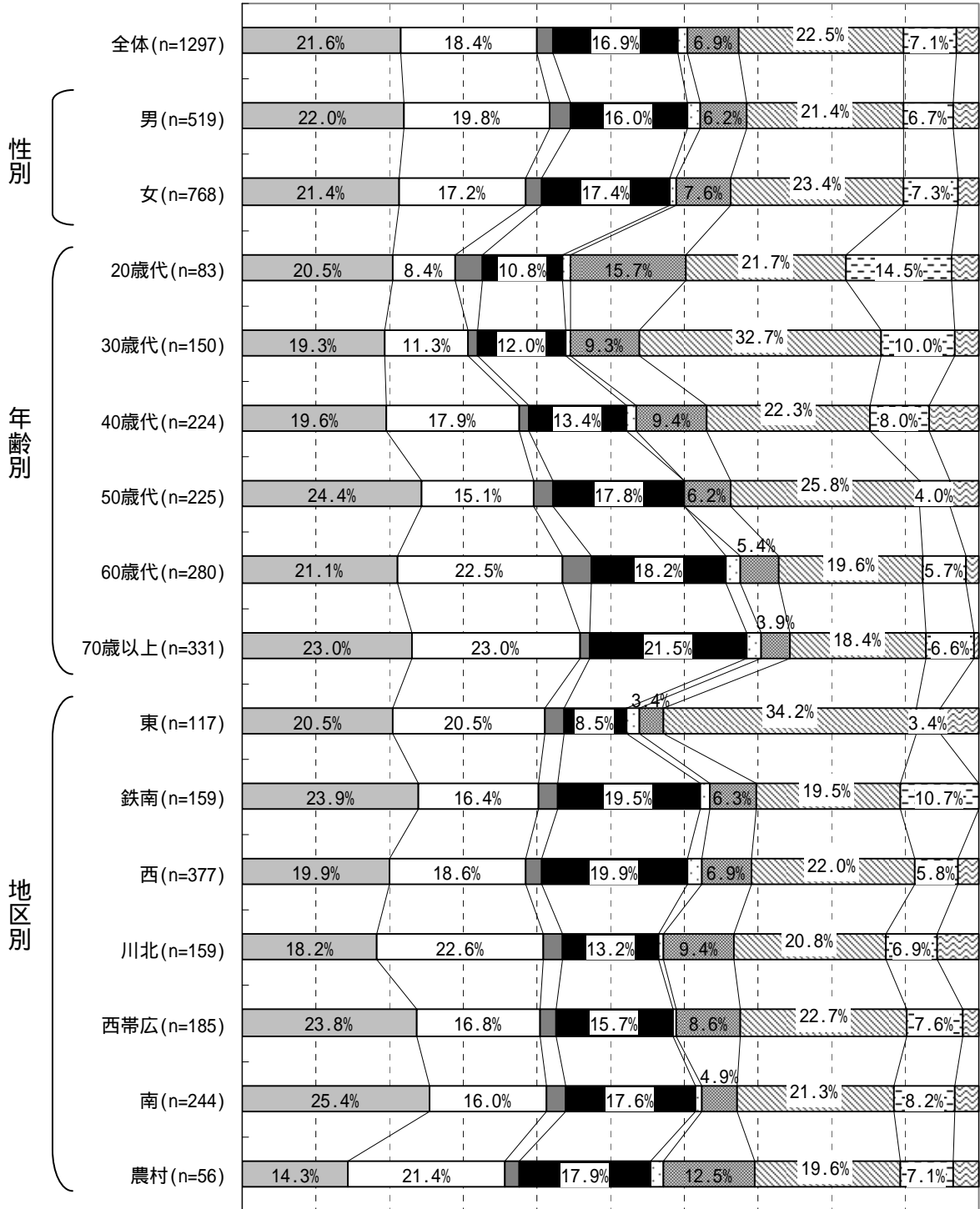
1. 文章表現をわかりやすくする
2. わかりにくい用語、カタカナ語を使わない
3. 文字を少なくする
4. 文字を大きくする
5. 漢字を少なくする
6. カラー印刷にする
7. 特にない
8. その他

「広報おびひろ」の改善点については、「特にない」が最も多く 22.5%となっていますが、「文章表現をわかりやすくする」が 21.6%、「わかりにくい用語、カタカナ語を使わない」が 18.4%と続いており、わかりやすさを求める意見が多くなっています。



問 14 「広報おびひろ」で改善すべき点（クロス集計）

- |                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| □ 1.文章表現をわかりやすくする | □ 2.わかりにくい用語、カタカナ語を使わない |
| ■ 3.文字を少なくする      | ■ 4.文字を大きくする            |
| □ 5.漢字を少なくする      | ■ 6.カラー印刷にする            |
| □ 7.特にない          | □ 8.その他                 |
| □ 9.無回答・無効        |                         |



## 8 . 帯広市のまちづくりについての自由意見【問15】

問15 帯広市のまちづくりについて、あなたの自由な意見を伺います。

アンケートの最後に、帯広市のまちづくりについて自由な意見や提案をいただきました。

回答者総数 1,062 人のうち 46.1%にあたる 490 人が記入し、性別では男性 216 人（48.2%）、女性 269 人（44.3%）となっています。

年齢別では、20 歳代が 55.1%と最も高く、年齢層が高くなるにしたがって記入率は低下する傾向にあります。

記入者の構成比率（性別、年齢別）

	合計			男性			女性			性別不詳		
	回答者 (人)	記入者 (人)	記入率 (%)	回答者 (人)	記入者 (人)	記入率 (%)	回答者 (人)	記入者 (人)	記入率 (%)	回答者 (人)	記入者 (人)	記入率 (%)
20 歳代	89	49	55.1	35	19	54.3	53	30	56.6	1		0.0
30 歳代	146	79	54.1	52	32	61.5	94	47	50.0			
40 歳代	178	85	47.8	75	39	52.0	102	45	44.1	1	1	100.0
50 歳代	191	75	39.3	77	27	35.1	113	47	41.6	1	1	100.0
60 歳代	223	105	47.1	100	48	48.0	121	55	45.5	2	2	100.0
70 歳以上	232	95	40.9	108	51	47.2	122	43	35.2	2	1	50.0
年齢不詳	3	2	66.7	1			2	2	100.0			
総計	1062	490	46.1	448	216	48.2	607	269	44.3	7	5	71.4

なお、回答の形式は自由記載ですが、記載内容を第五期総合計画のまちづくりの目標に従い整理しました。

- 1 . 安心安全 （保健・福祉・医療・防災・防犯・交通安全など）
- 2 . 産業複合 （農林業・工業・商業・観光・労働・中心市街地など）
- 3 . 環境共生 （環境・緑化・住宅・住宅地・上下水道・道路・河川など）
- 4 . 生涯学習 （教育・生涯学習・文化・スポーツなど）
- 5 . 広域連携 （総合交通・広域連携・交流・情報など）
- 6 . 自治体経営 （地域コミュニティ・市民自治・自治体経営など）
- 7 . その他 （上記に分類されないもの）

意見・提案は、全部で 713 件となっており、内容は、「自治体経営」に関するものが 203 件と最も多く、次いで「産業複合」142 件、「環境共生」118 件と続いています。

分類	件数
安心安全	117
産業複合	142
環境共生	118
生涯学習	66
広域連携	34
自治体経営	203
その他	33
合計	713

## 意見・提案の概要

### 安心安全

少子化、高齢化が進む中で、経済的支援や地域で子どもを見守るしくみづくりなど、子どもを生き育てやすい環境づくりを求める意見や、医療や福祉、生きがいつくりなど、高齢者が安心して老後を暮らせる施策を求める意見が多く挙げられています。

また、障がい者にとっても暮らしやすいまちづくりが求められています。

交通安全や防犯、防災については、安心して安全に暮らせることができることを望む声が多くありました。

### 産業複合

都心部の空洞化を懸念し、まちの顔である中心市街地の活性化を望む声が多く挙げられていますが、一方で、魅力ある大型商業施設を望む消費者のニーズも寄せられています。

農業や商工業については、帯広・十勝の特性を活かし、農業を核とした食にかかわる産業の振興などの提案がありました。

また、地域経済の停滞に対応するために、企業誘致を進め、雇用の場を創出することにより、まちを活性化させる必要があるといった意見が出されました。

観光面では、ばんえい競馬、ラリー、祭り、農村景観、グリーンパークな

どの、地域資源を活用するほか、小さな魅力を連携し、複合化した観光づくりをすすめ、それらをアピールすべきといった意見がありました。

## 環境共生

除雪や道路整備など、安全に通行できる道路の管理を求める意見が多く挙げられています。

また、住環境では、景観に配慮したまち並みの形成についての意見があり、街路樹や花壇の整備のほか、ゴミのポイ捨てや飛散など、まちの美化に関する意見も多くありました。

最近の地球温暖化などの環境問題に対して、帯広の豊かな自然を大切にすべきとの意見もありました。

## 生涯学習

教育の面では、大学や専門学校の充実を求めるものや、帯広畜産大学の農業関連の情報発信機能を高めるべきとの意見がありました。また、学校施設整備など教育環境に力を入れて欲しいという意見もありました。

また、若者の能力を伸ばすための講座や、気軽に参加でき、やりがいの持てるまちづくり活動に対する支援があればよいという意見もありました。

生涯学習では、講習会等のジャンルを増やし市民のニーズに応えられるようにしたらよいといった意見がありました。

文化・スポーツでは、全国大会などを誘致し、整備の整っている運動・文化施設を有効活用することが必要との意見もありました。

## 広域連携

広域的な視点では、道東エリアの核としてまちづくりを進めるためには、まず十勝管内の連携強化が必要という意見がありました。

総合交通及び交流の点では、全道・全国との交通アクセスの利便性を高めることにより、ヒトやモノがスムーズになり、さらに帯広から全国へ物産や、企業をアピールしていくべきという意見がありました。

## 自治体経営

市民協働については、市民がわかりやすく興味を持ってもらえるように情報を提供し、まちづくりに参加しやすい体制をつくる必要性があるとの声や、市民協働を進めるためには、町内会など地域における参加意識の向上や、地域での協調性低下への対応など、広報広聴機能や地域コミュニティの強化が求められています。



また、市の財政に対して不安を抱く声が多く、無駄のない効率的な行財政を推進するとともに、行政の資質向上も求められています。